

始



五山四公正美他系集



五山四為正善作品集



## 序

四谷正美君五山と號す明治九年一月五日岡山縣瀬戸町に生る明治三十二年東京美術學校彫金本科卒業の後自營して以て一貫いまにいたるこの間大正五年より宮内省御用として製作仰付られまた大正十四年商工省及び東京府の依頼によりて歐洲視察の爲外遊すこの時巴里萬國工藝博覽會審査員を命ぜられヨールコンクール賞を受く昭和九年帝國美術院美術展覽會審査員を依頼せらるゝ事ありこの外日本彫金會顧問日本美術協會委員三樂書道會審査員等にあげらる

昭和十三年以來病に臥してすでに三年に及ぶ令閨八重子の君枕頭に侍して醫藥看護にいそむかたはら年來撮影したる作品寫眞をとりて慰藉の料とせられたりしが遂に作品集刊行を企圖せらるゝに審美書院野口駿尾君の好意によりて本集を編むことゝなりぬ掲ぐるところの作品大正十二年九月の大震災火災以前のものは大部分焼失したれ共それ以後のものを多く蒐集せり

五山君の妙技は海野勝珉・海野美盛兩先生の薰陶により殊に片切彫を以て最も特意とすこれ名工加納夏雄翁の直傳として世に重せらる本集は以て君の作風を玩味すべくまた以て君の自叙傳と稱すべく工藝史家はこれを以て無上の資料とすべし

皇紀二千六百年昭和十五年八月初吉

友人 香 取 秀 眞

帝室技藝員  
帝國美術院會員  
東京美術學校教授

# 跋

雄勁なる片切刻は、彫金技術中の、最日本精神的の刀法である、現今此技術の第一人者であるところの、四谷五山君は、吾が四十餘年來の友人で、東京美術學校卒業以來一度も月給取りとなりし事なく、巧拔の腕と高雅な趣味で、今日迄自活せる生一本の、現代稀なる浮世放れした藝術家である。學生時代には故菱田春草や、天草神來、下村觀山、及現在の横山大觀等と共に本郷龍岡町の中村館といふ下宿屋に立て籠り、磊々落々、大に當時美術學生の超凡ぶりを發揮し、珍談逸話の持主であつた、後川端玉章翁に畫を學び、書を水野疎梅氏に、詩を松村琴史氏について研究した、從て彫金の技術は老境と共にますます進み、名人加納夏雄先生の壘を摩する作品を見るに到つた、日本の彫金術は、古來より刀劍の裝具烟草入れ、等の必用から異常の發達をなし、世界に冠たるもので先年君は、巴里博覽會の審査員として、佛蘭西に趣き片切刻の銀盆を出品し、獨自の巧妙なる技を萬國に示めして、吾國美術工藝界の爲、大に氣を吐いた。

君は今病床にあれども恢復の後は又妙手を揮ふこと、おもふ。

今回此四谷五山作品集を編むに方たり、往時を懷ひ、記して跋となす。

昭和庚辰夏日

友人 野口 駿 尾

作者 照 影



作者 筆 蹟

半齋竹西社採亭

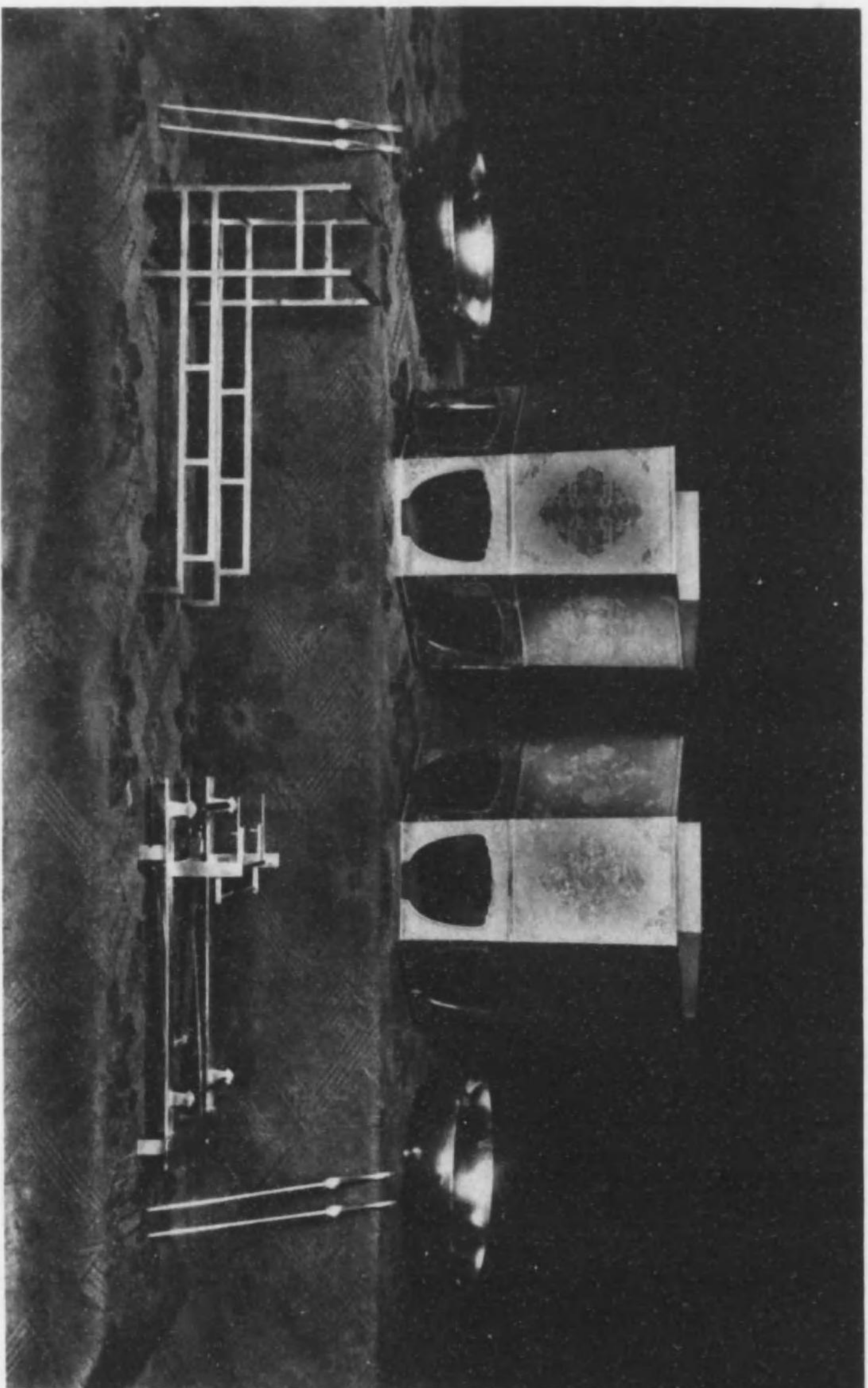
五山先生遺稿

東京四谷五山美術會編輯部 (後編) 巻八、東京四谷五山

伊勢内宮御遷宮當夜參列ノ服裝



御神寶消金火桶



宮内省御用品銀製花瓶

高さ一尺三寸



双龍  
口為心美謹刻  
映雲

宮内省御用品黒味銅花瓶

高さ一尺一寸



宮内省御用品  
口為心美謹刻

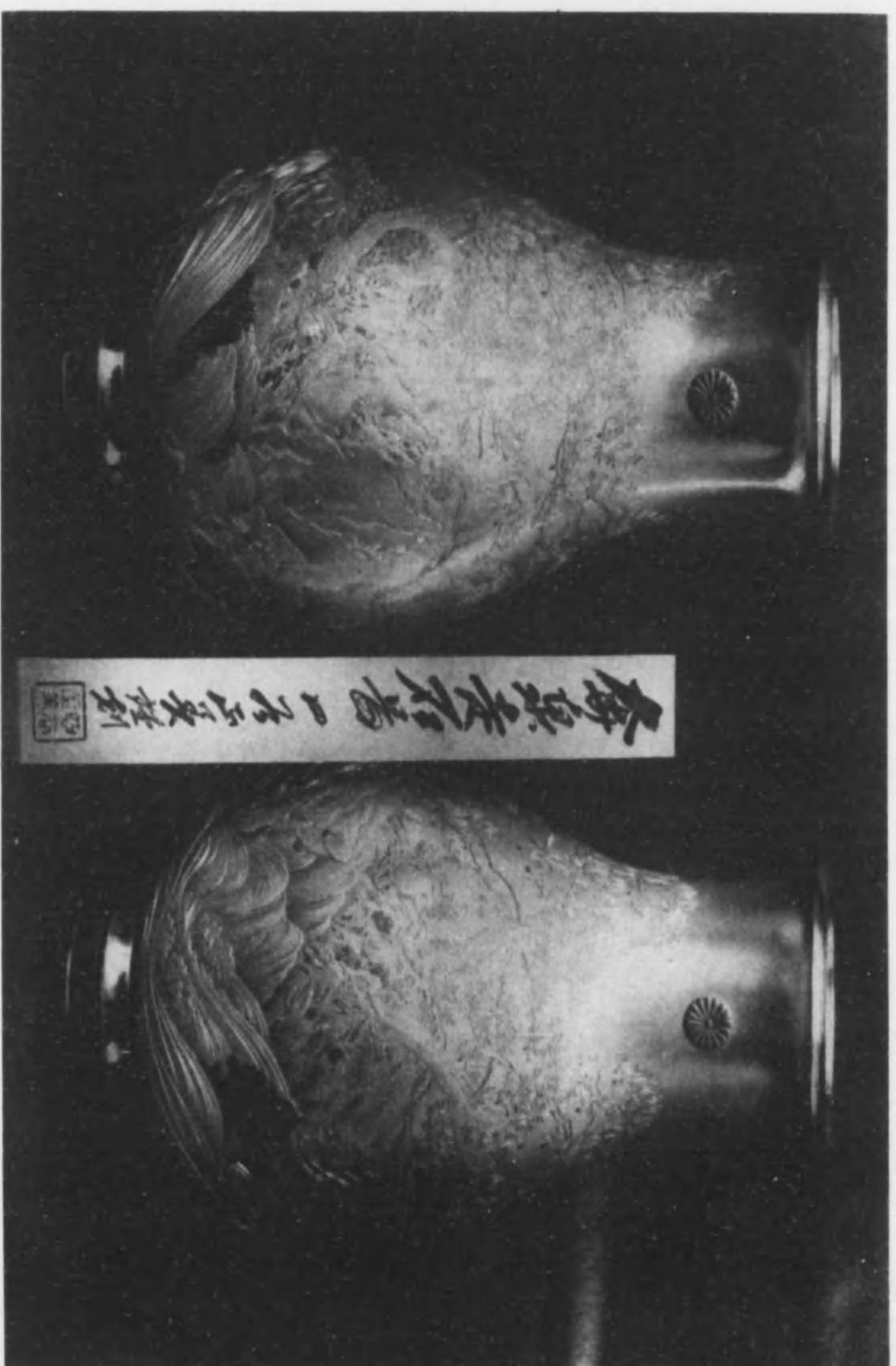
宮内省御用品銀製花瓶

高サ一尺五分



宮内省御用品銀製花瓶

高サ一尺一寸



宮内省御用品銀製花瓶

高サ一尺五分



宮内省御用品銀製花瓶

高サ一尺五分



宮内省御用品銀製花瓶

高サ一尺五分

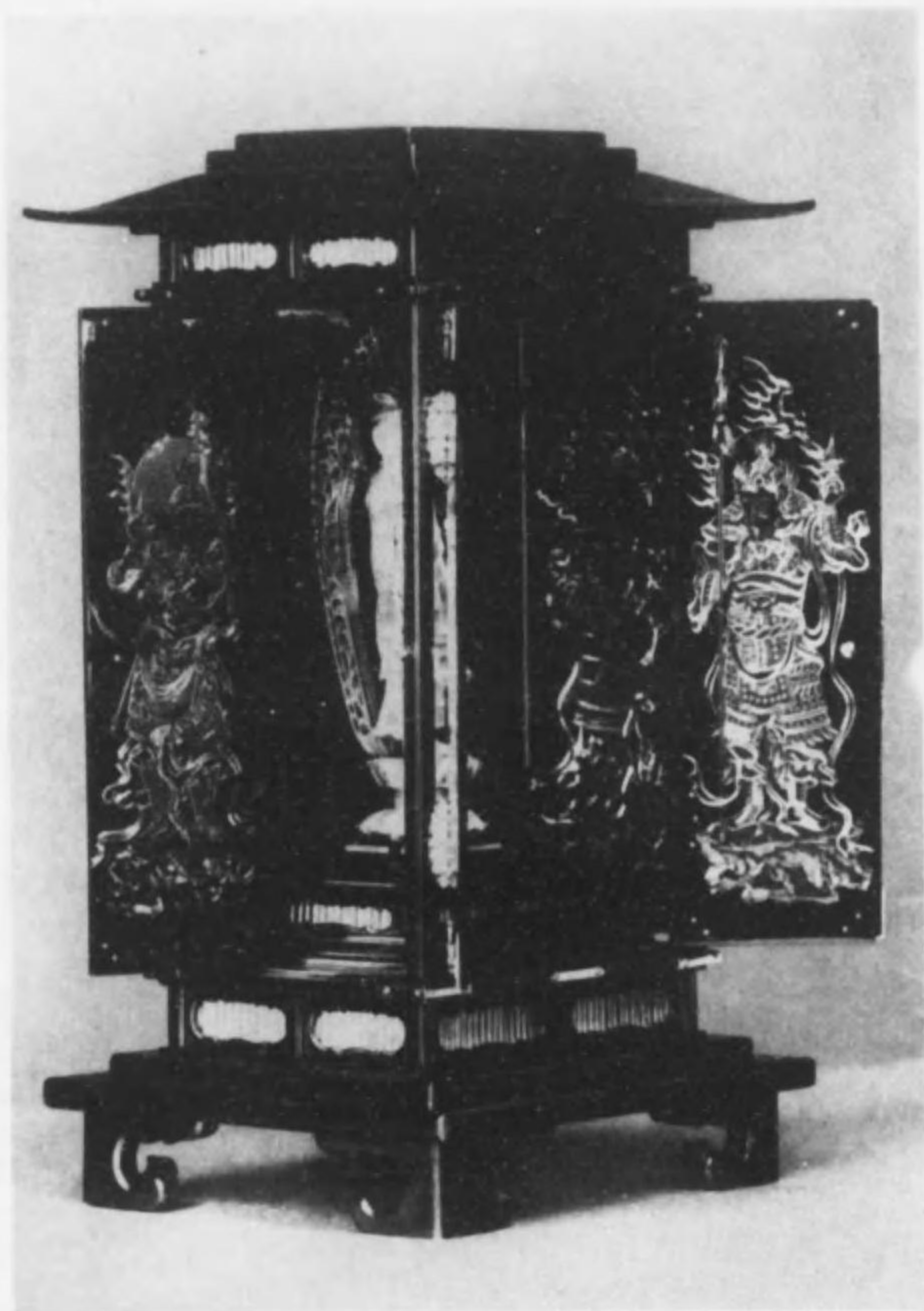


銀製鳳凰置物

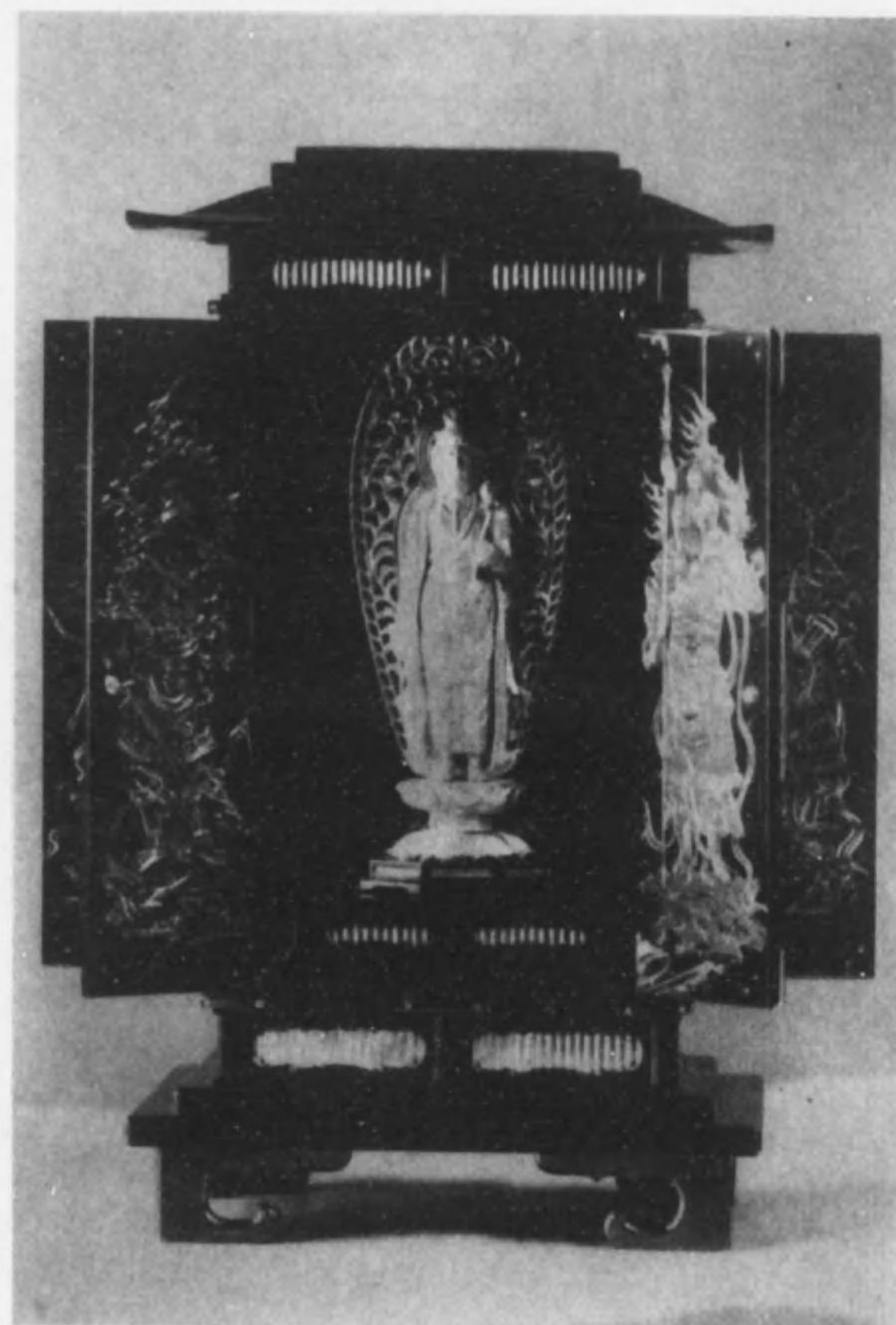
前田侯爵家所藏



明治天皇前田侯爵邸行幸ノ際謹製（明治四十二年）



同上



聖觀音金像 一寸八分

東京 青木民次郎氏所藏

御厨子金四分一製四枚扉四天王彫

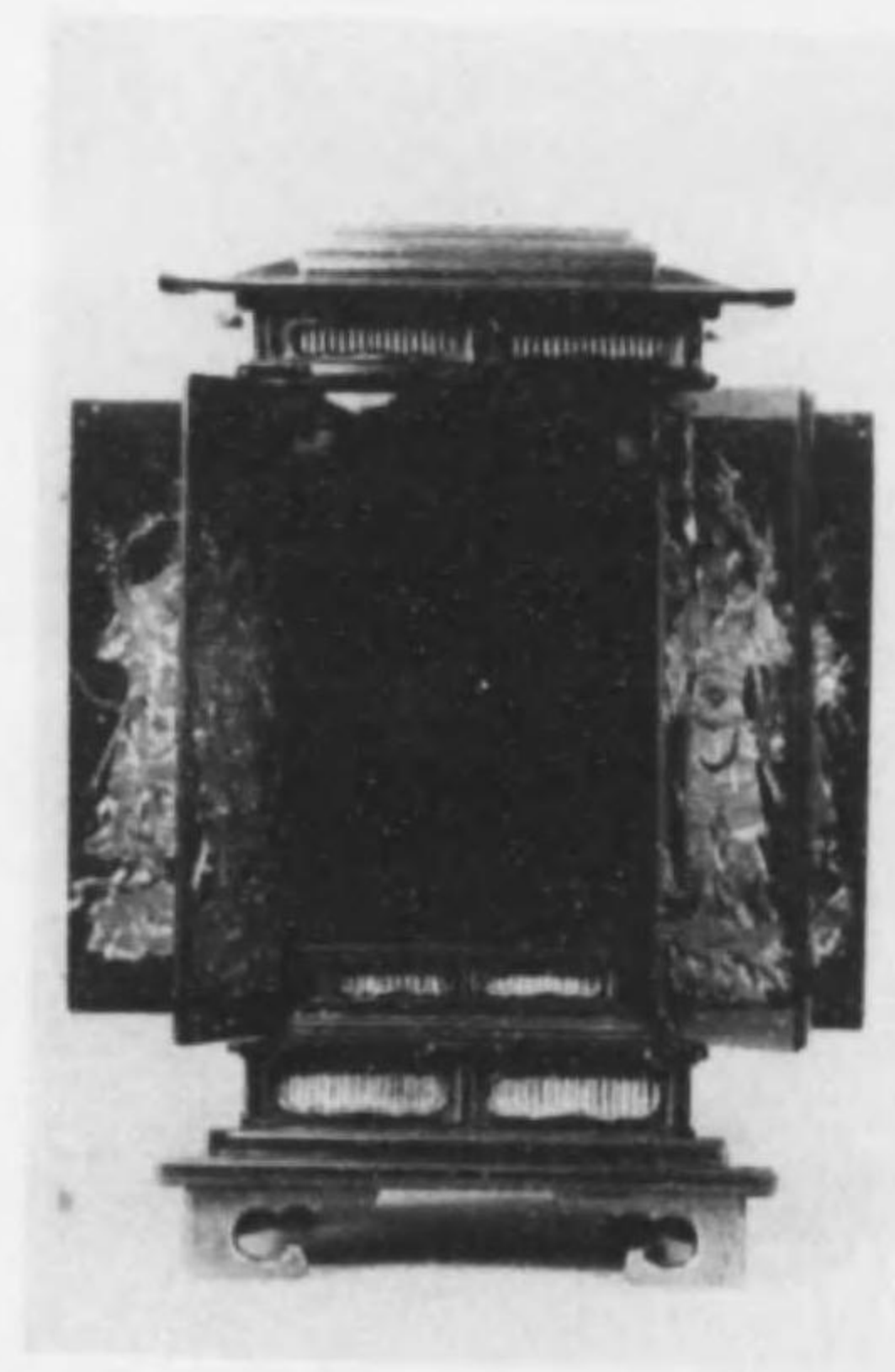


聖觀音銀像

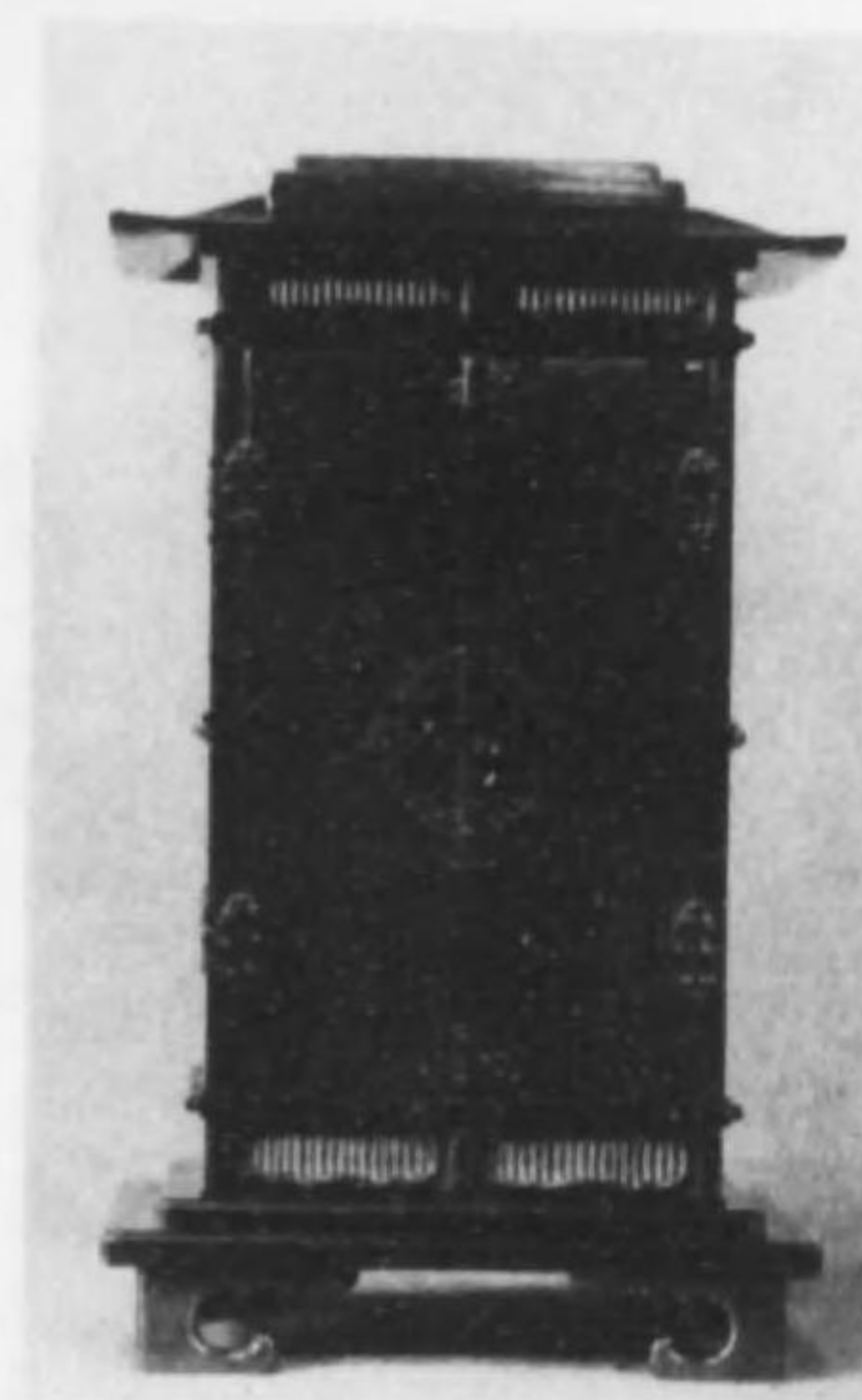
東京 青木民次郎氏所藏



同上



同上



同上



四谷正美刻  
服部時計店謹製

滿洲國宮內府御用品銀製花瓶

高廿一尺三寸



四谷正美刻  
服部時計店謹製

滿洲國宮內府御用品銀製花瓶

高廿一尺三寸



四谷正美刻  
服部時計店謹製

滿洲國宮內府御用品銀製花瓶

高さ一尺三寸



四谷正美刻  
服部時計店謹製

滿洲國宮內府御用品銀製花瓶

高さ一尺三寸



東京市御用花瓶

高サ一尺五分

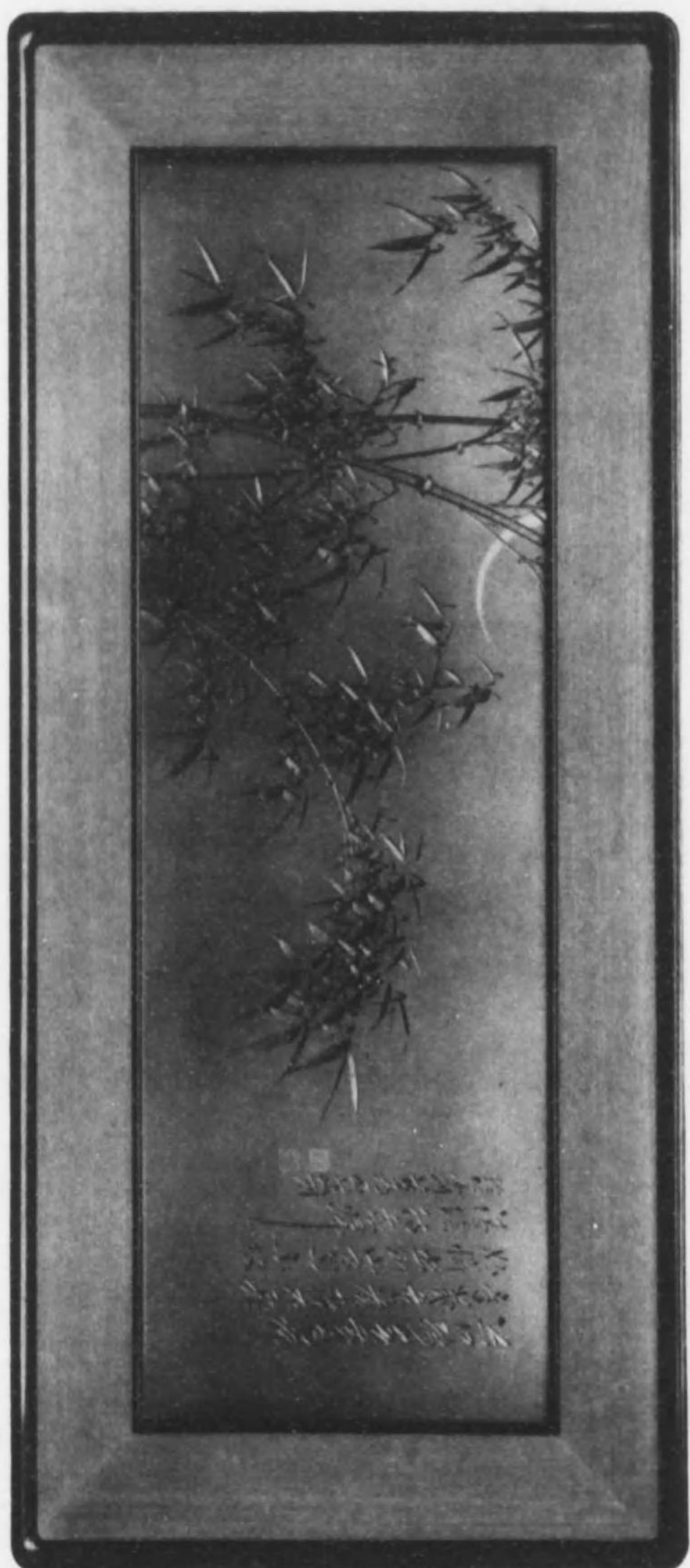
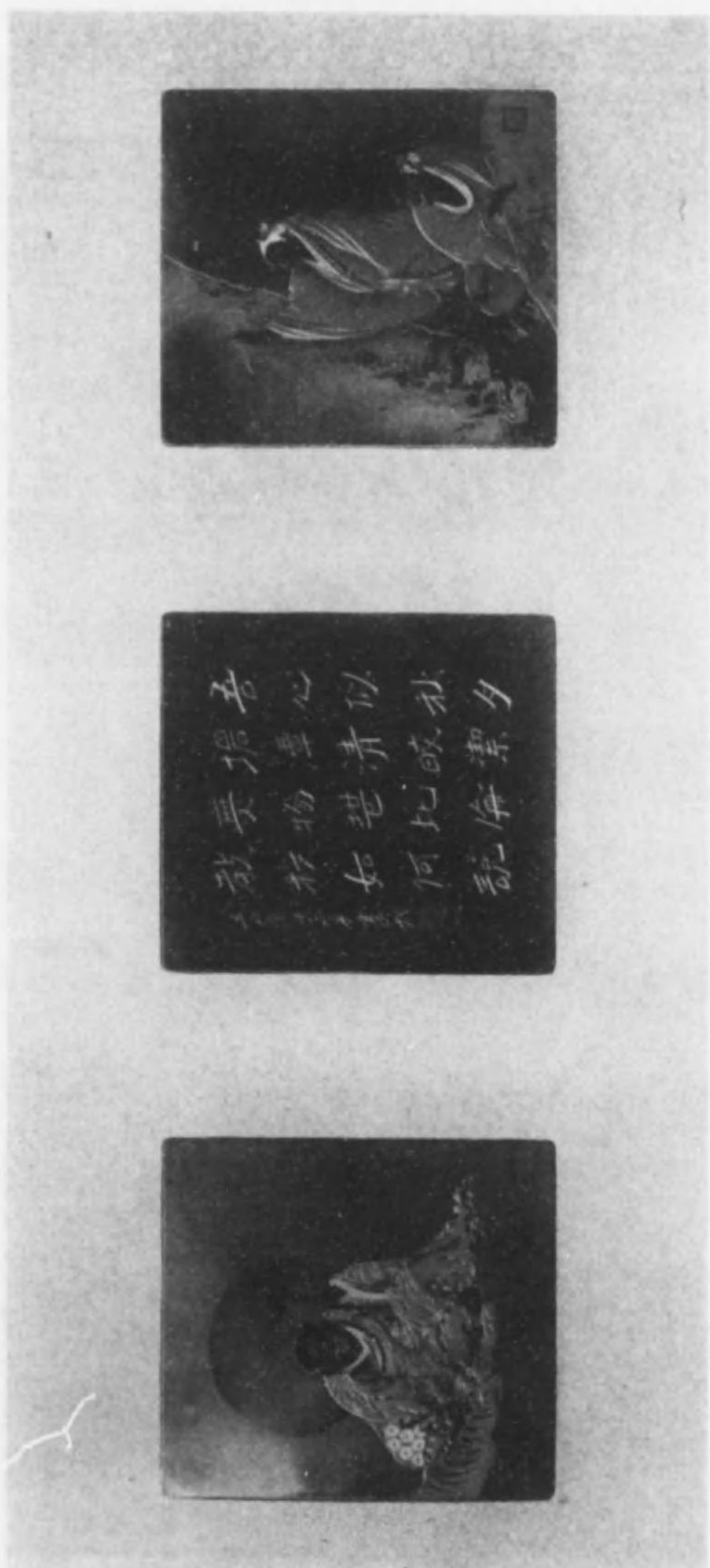


滿洲國宮内府御用品銀製花瓶

高サ一尺二寸

四谷正美刻  
服部時計店謹製

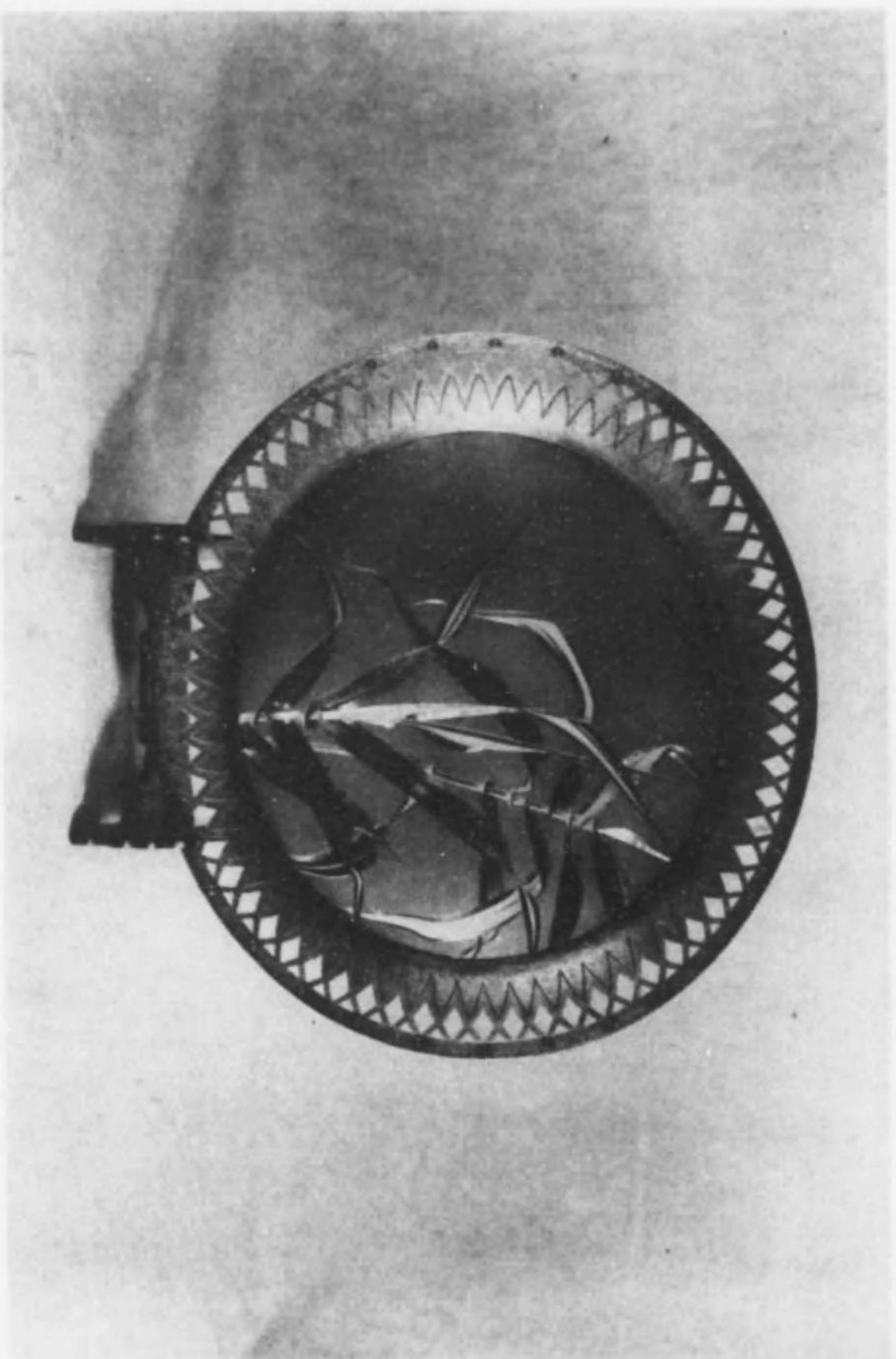
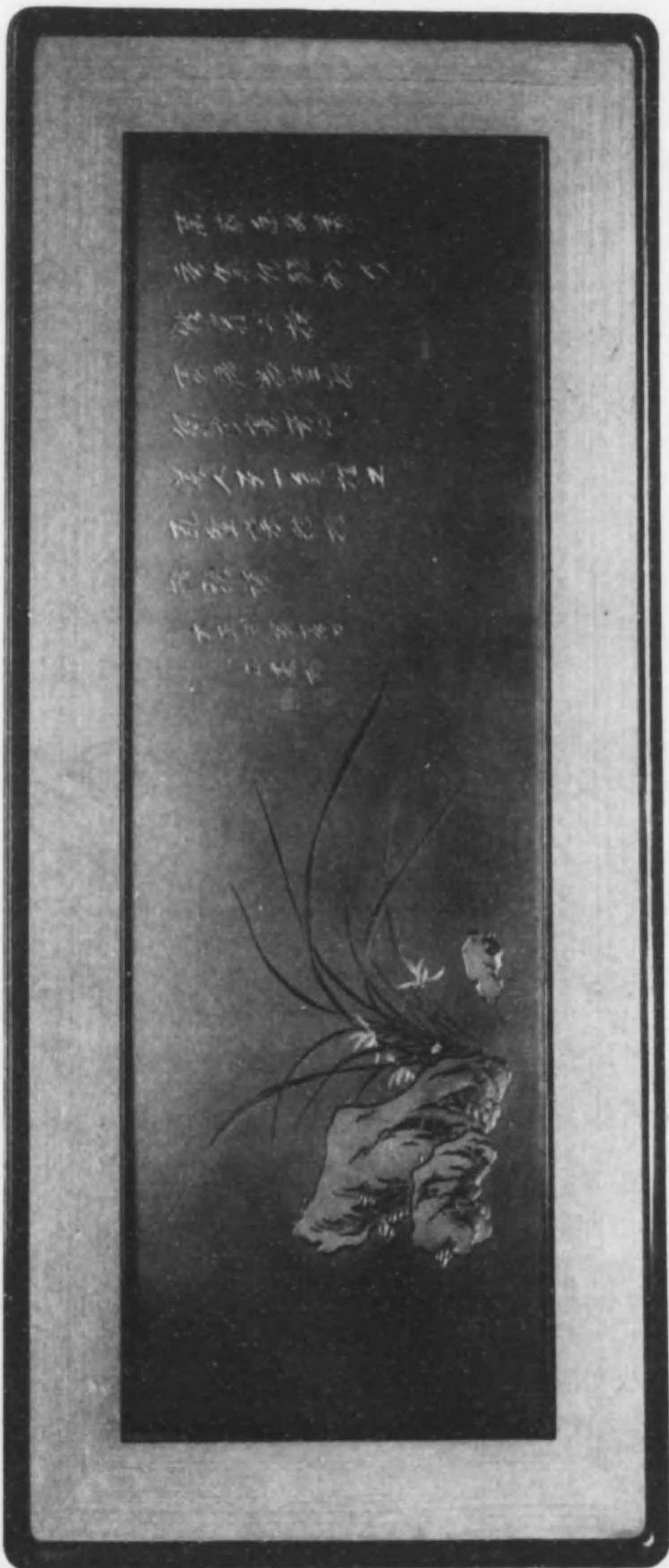
面額得拾山寒



竹ノ彫額面  
東京 鮎川義介氏所藏

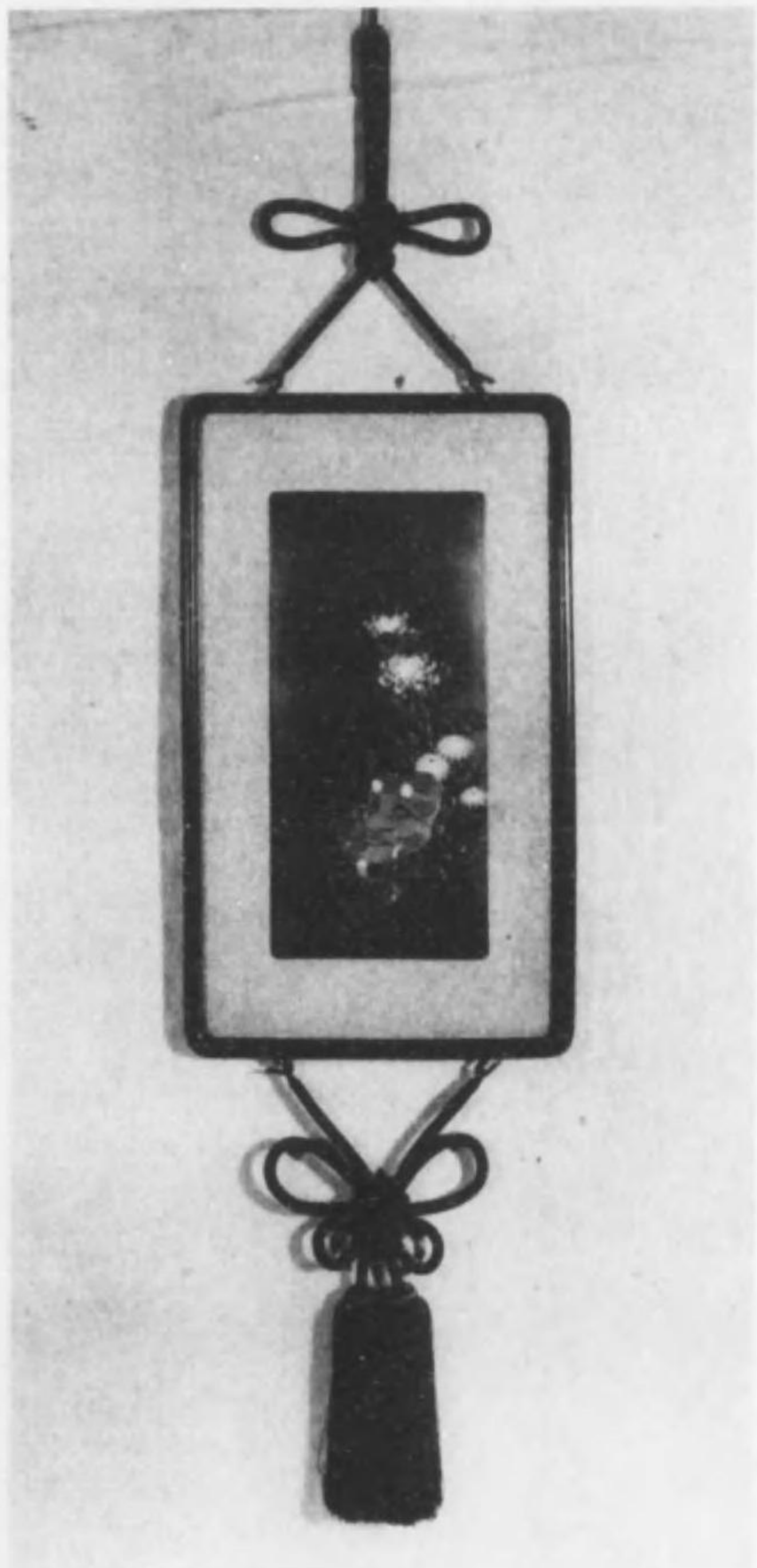
作者所藏

蘭ノ彫額面



銀金四分一製飾皿  
滿洲國中央銀行御用

翁ノ圖掛額



作者所藏

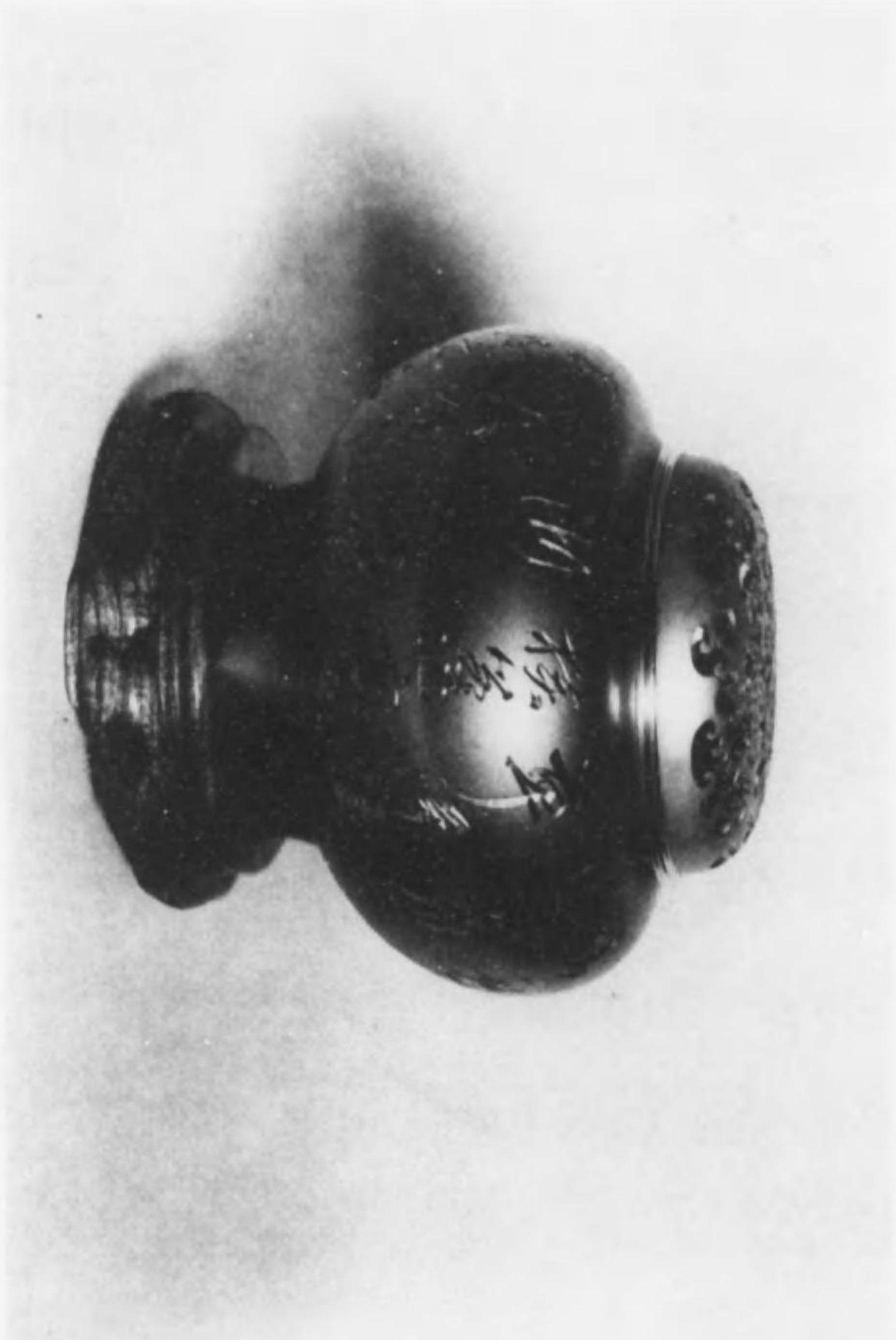
素銅掛額

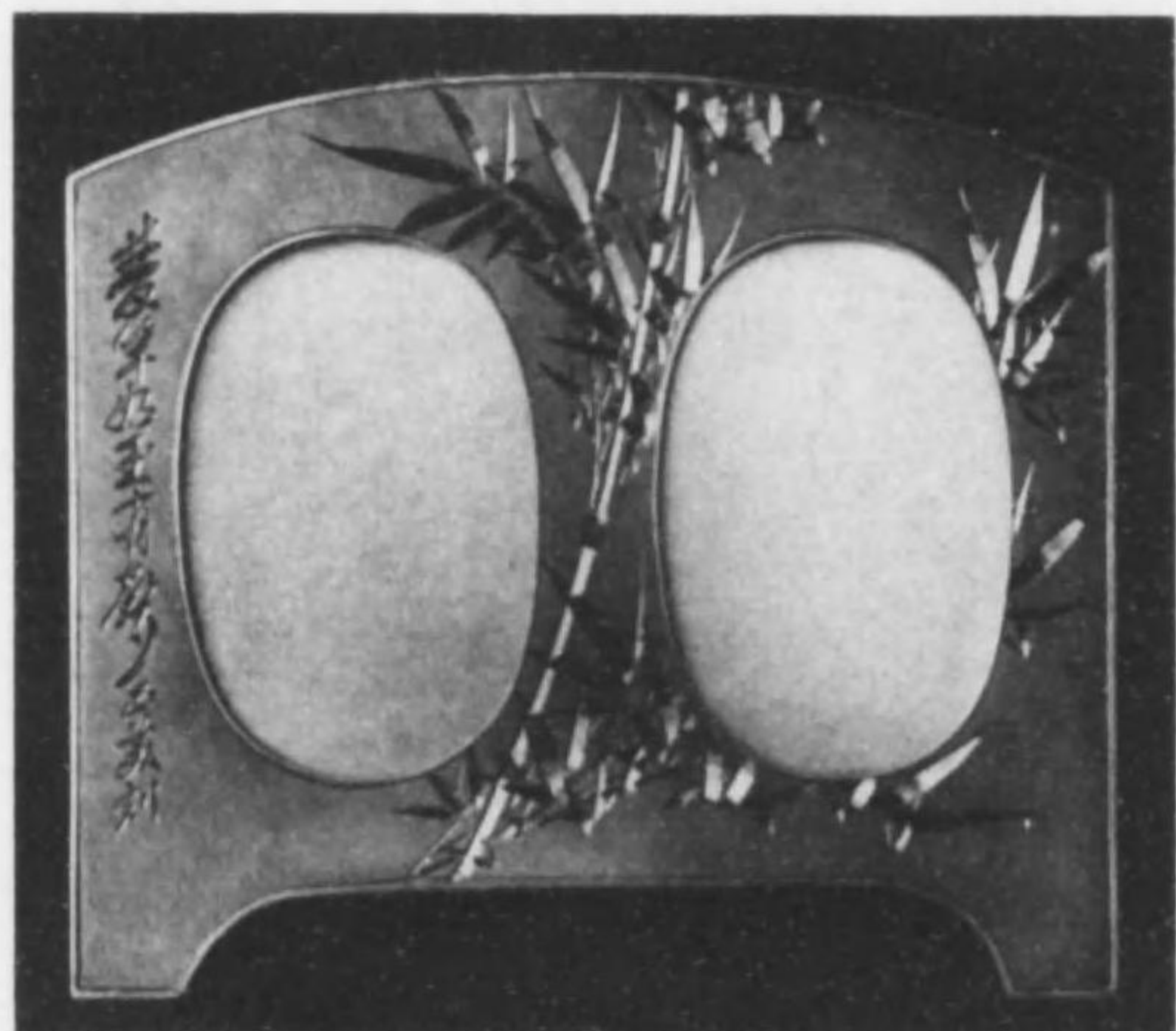


東京美術學校所藏

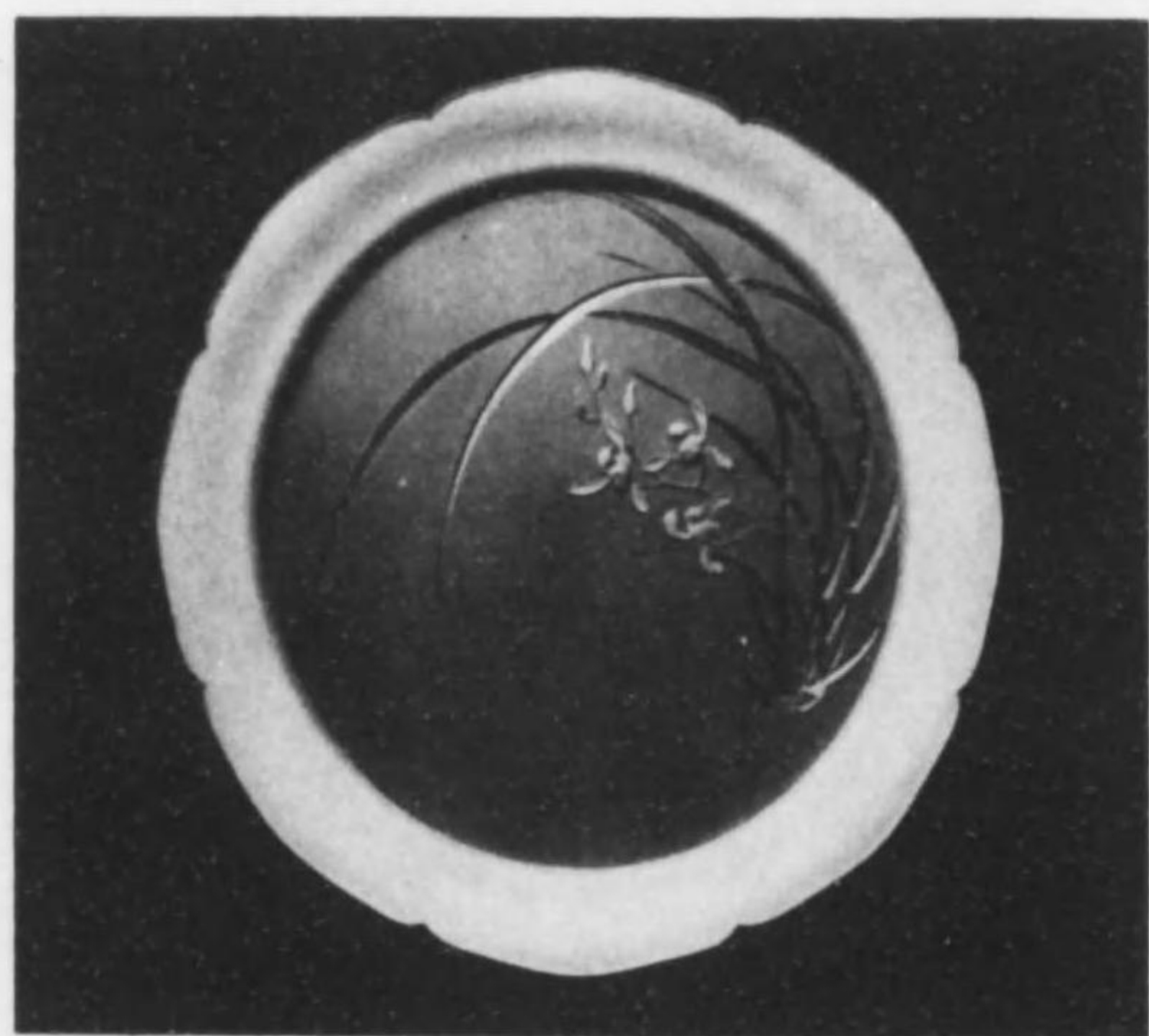
四分一香爐

岩國 柳屋佐祐氏所藏

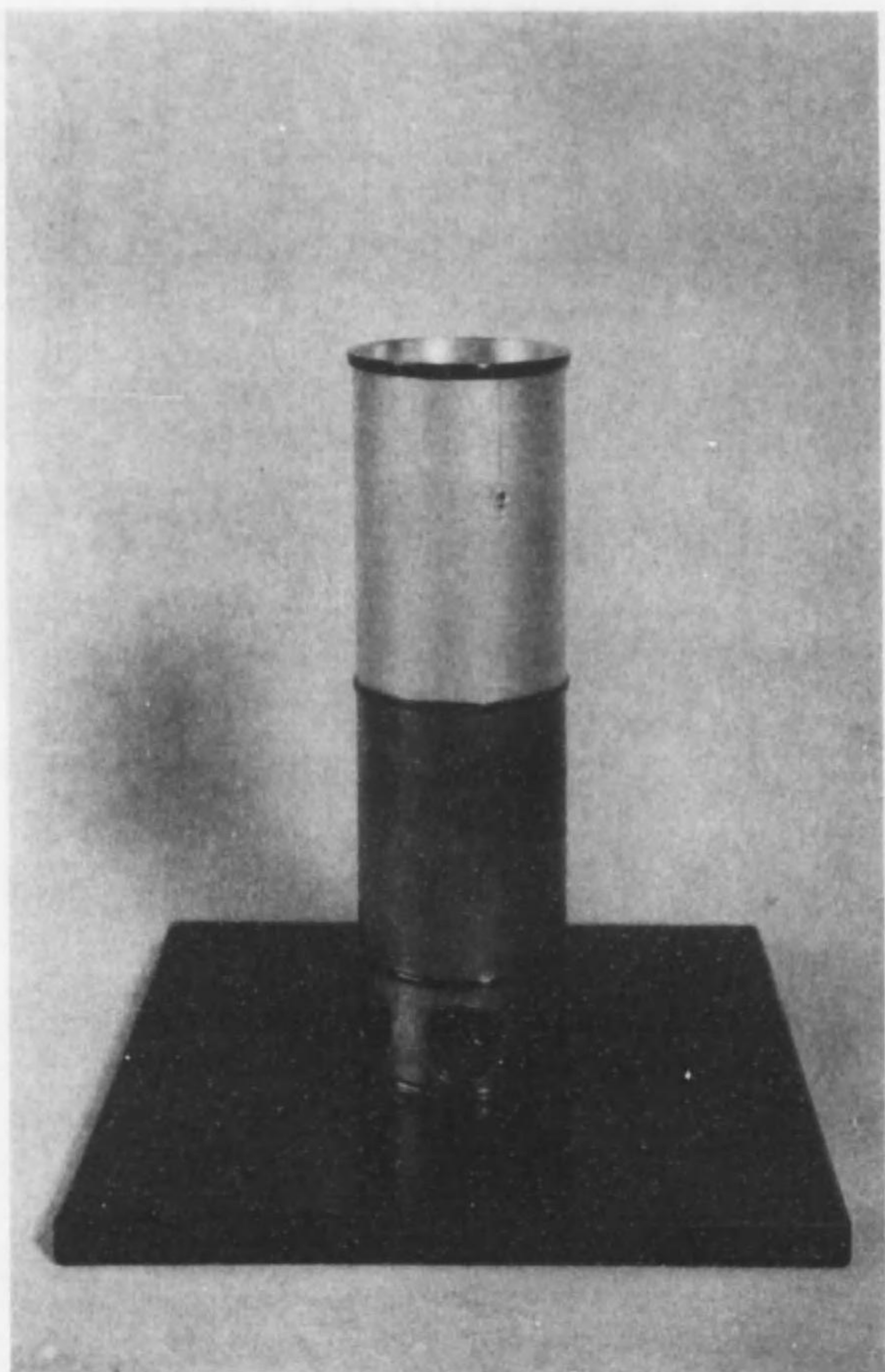




四分一寫真立 古澤丈作氏所藏



銀製飾皿 野口遵氏所藏



銀四分一張分一輪挿

作者所藏

素銅香爐都鳥彫



銀製香爐福録壽彫 東京 田尻秀吉氏所藏



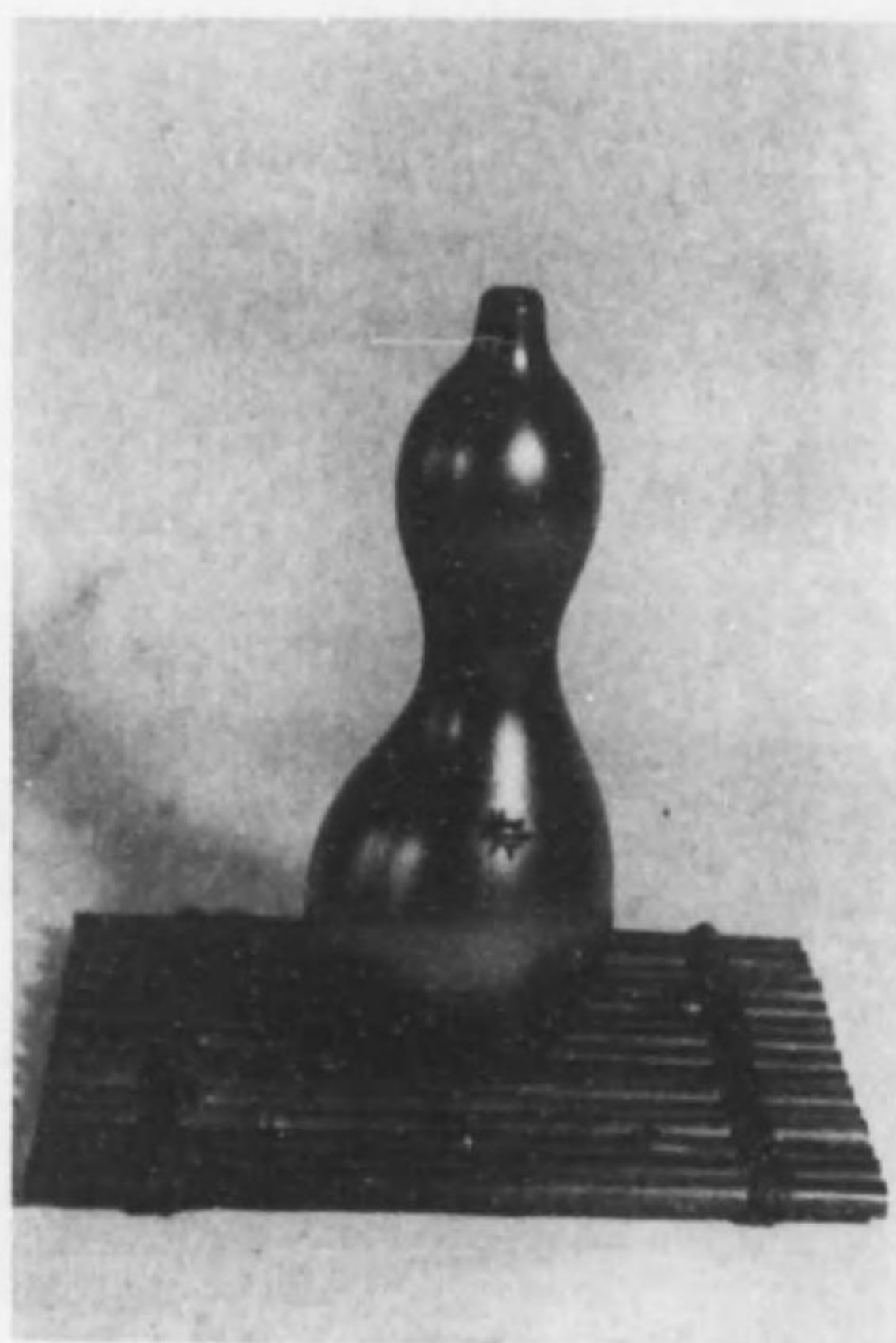
四分一輪挿



滿洲國中央銀行御用

素銅一輪挿

東京 歌橋憲一氏所藏



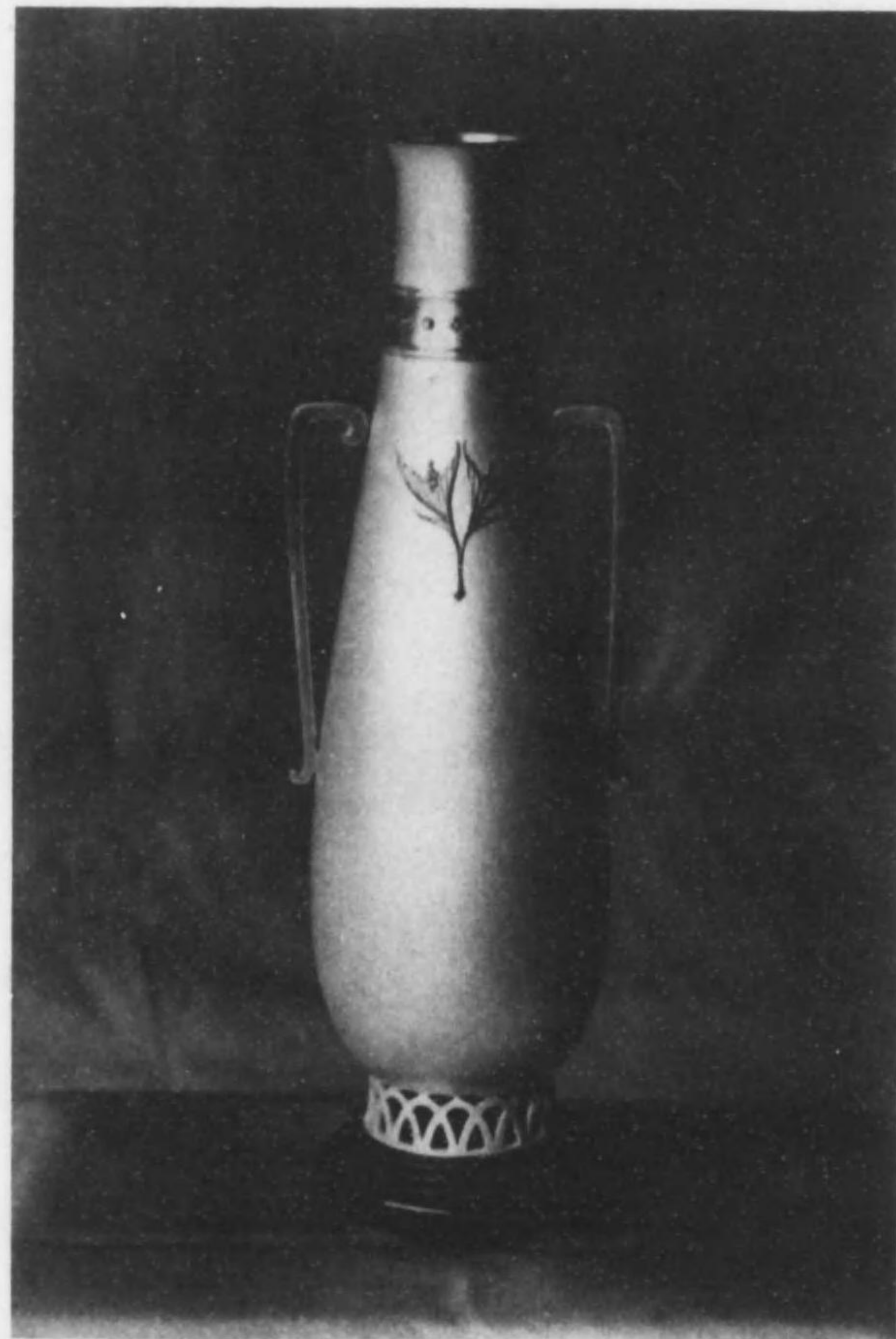
高松宮殿下御下賜品

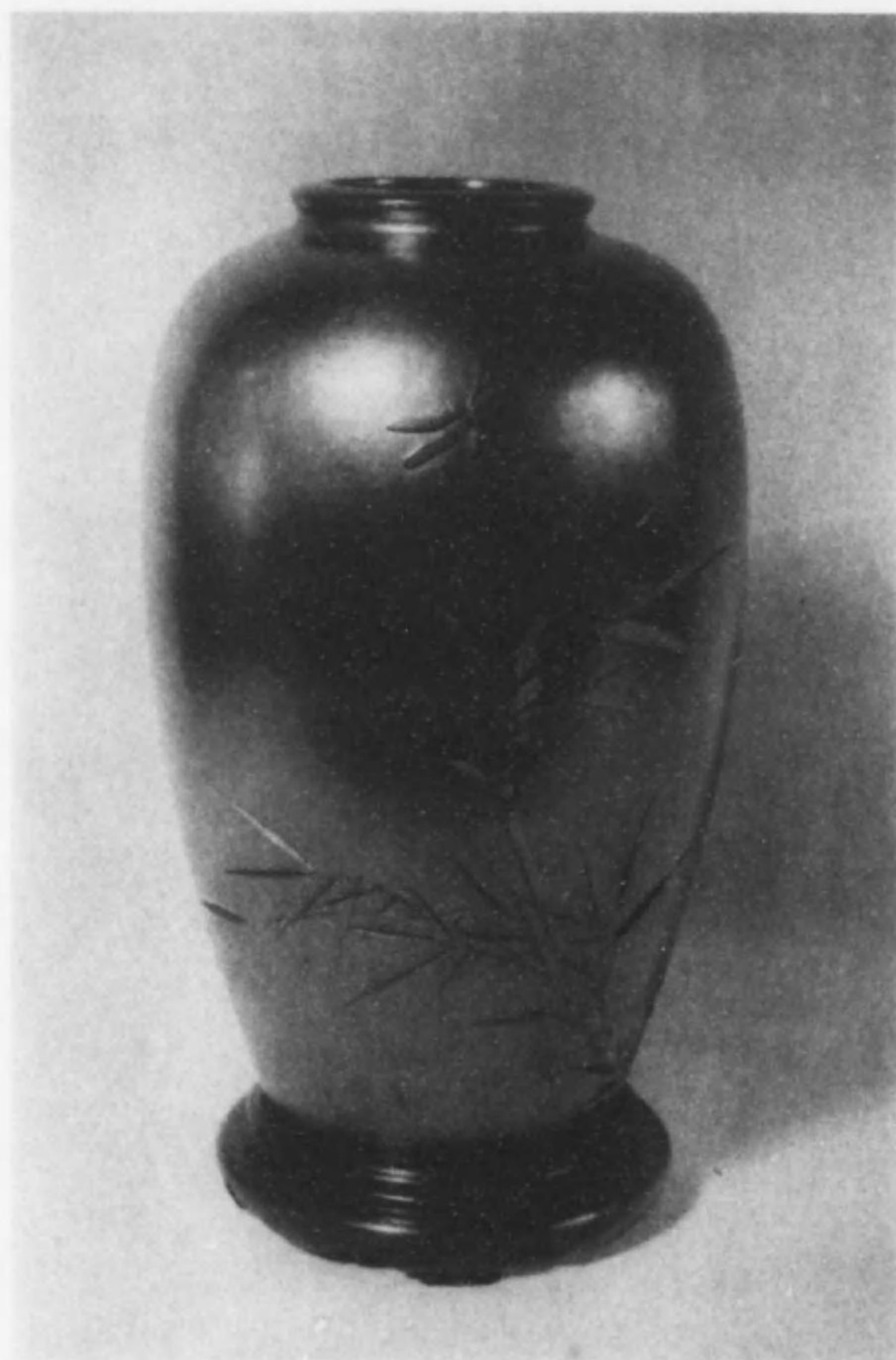


素銅花瓶松ノ彫

三樂病院所藏

銀製一輪挿





素銅花瓶竹ノ彫

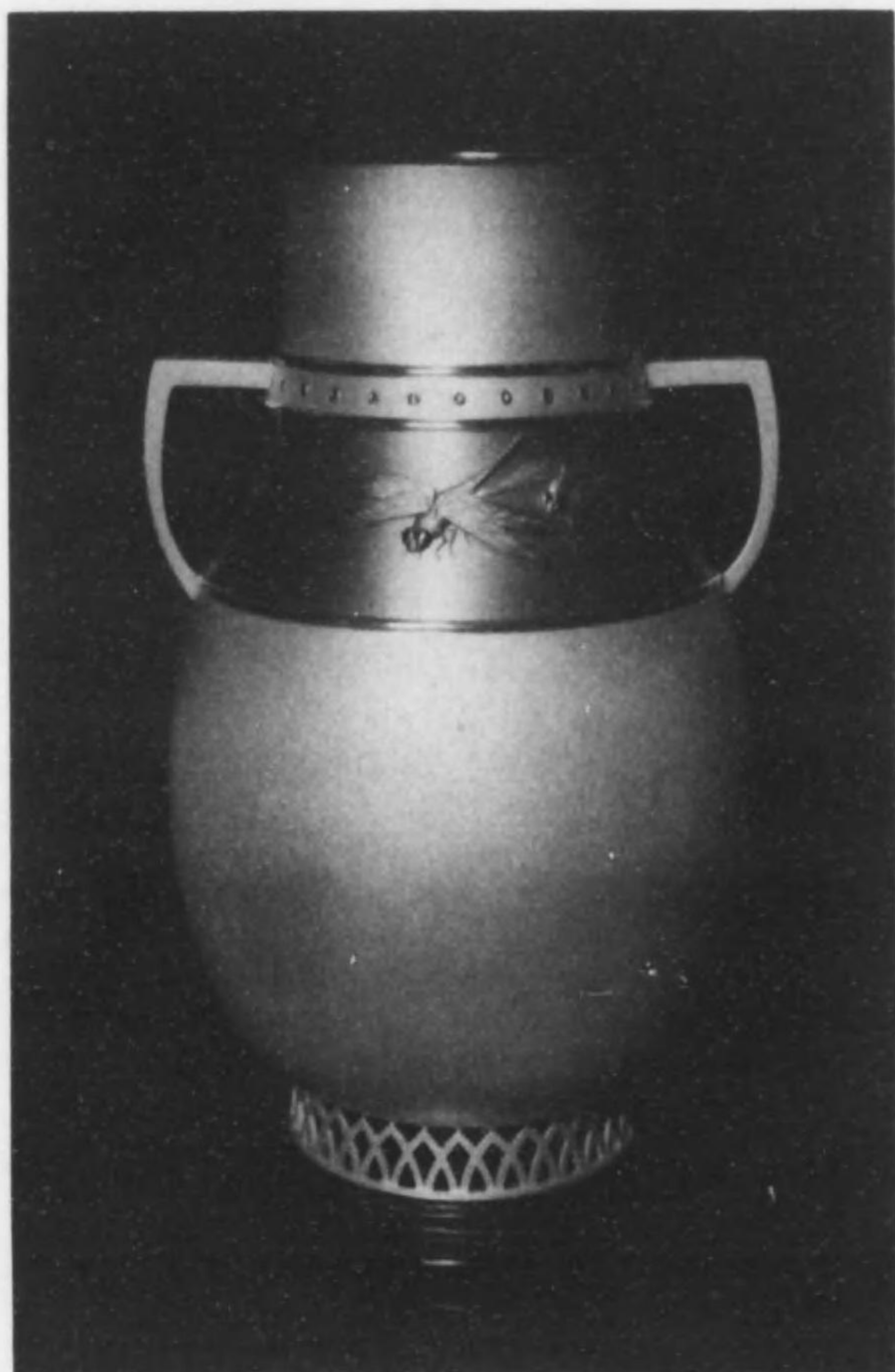
日本窒素肥料株式會社御用



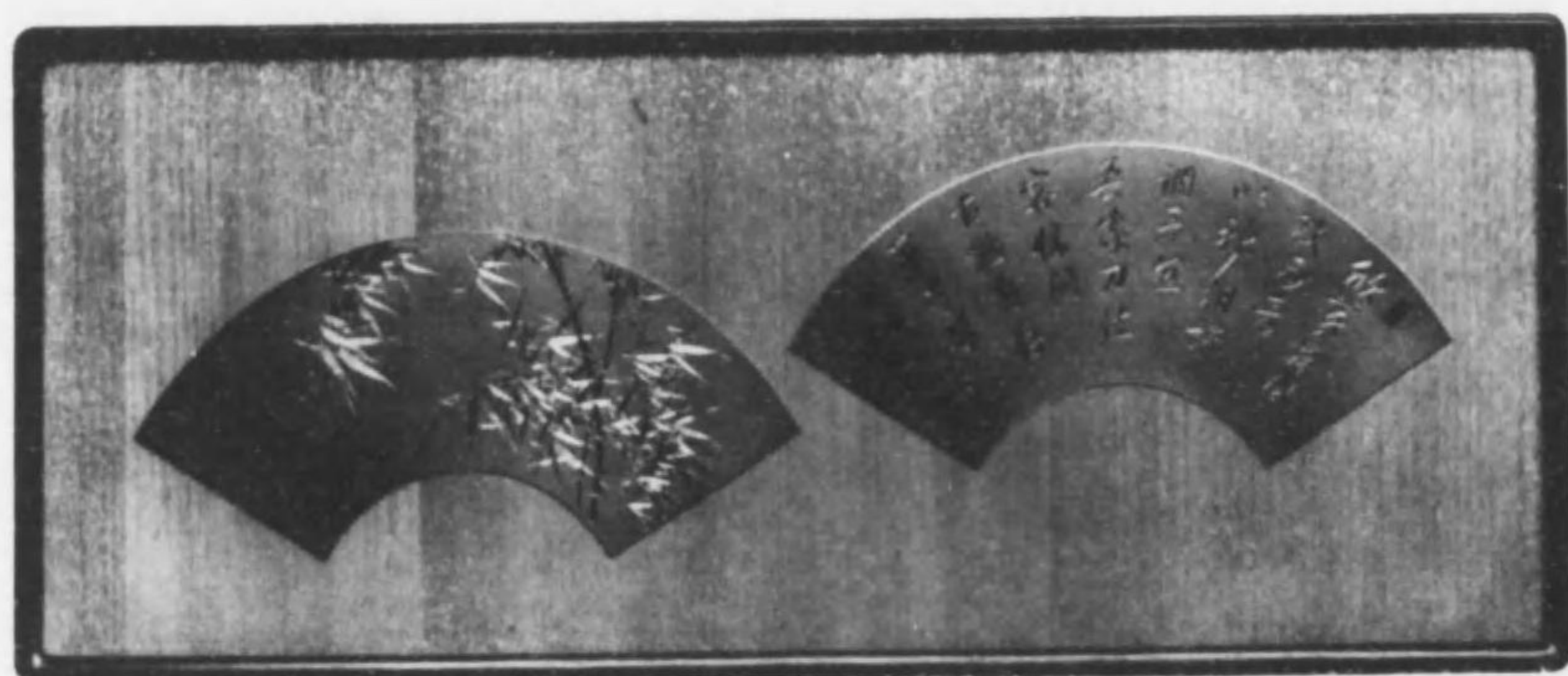
素銅花瓶竹ノ彫

東京 守田治兵衛氏所藏

銀四分一張分赤蜻蛉彫（第一回文展出品） 東京 小布施新三郎氏所藏



東京 瀬下清氏所藏



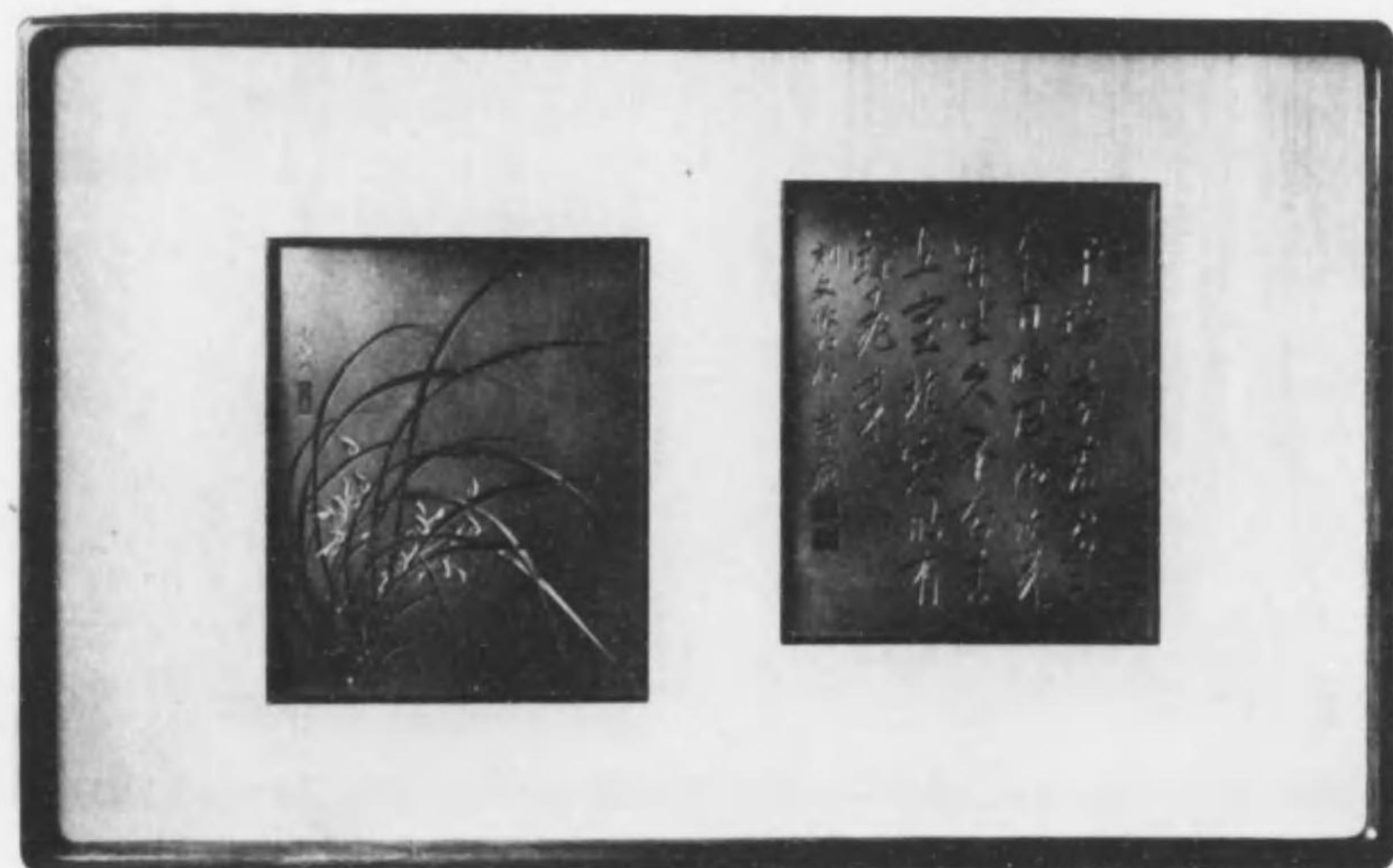
東京 小布施新三郎氏所藏



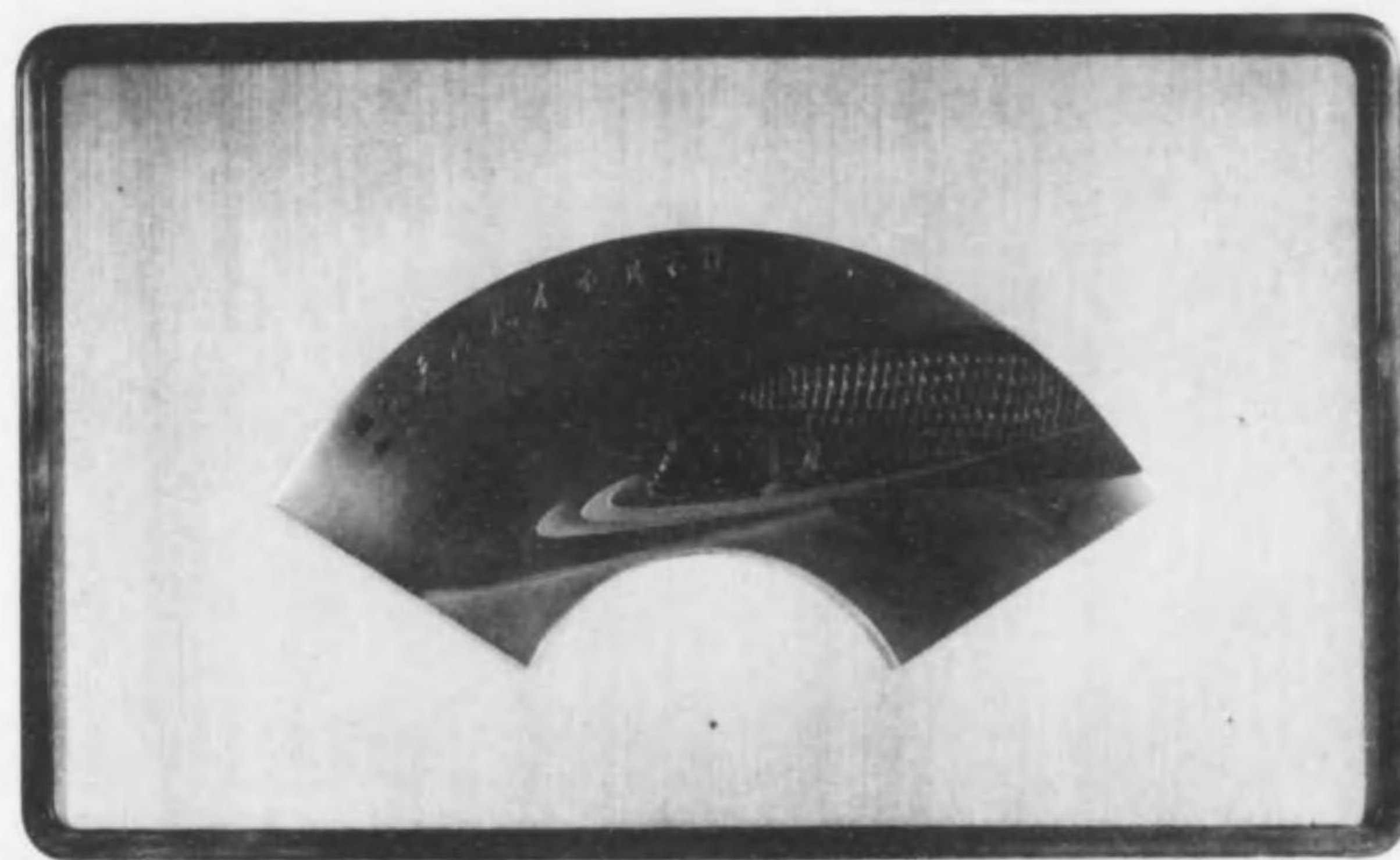
東京 小布施新三郎氏所藏



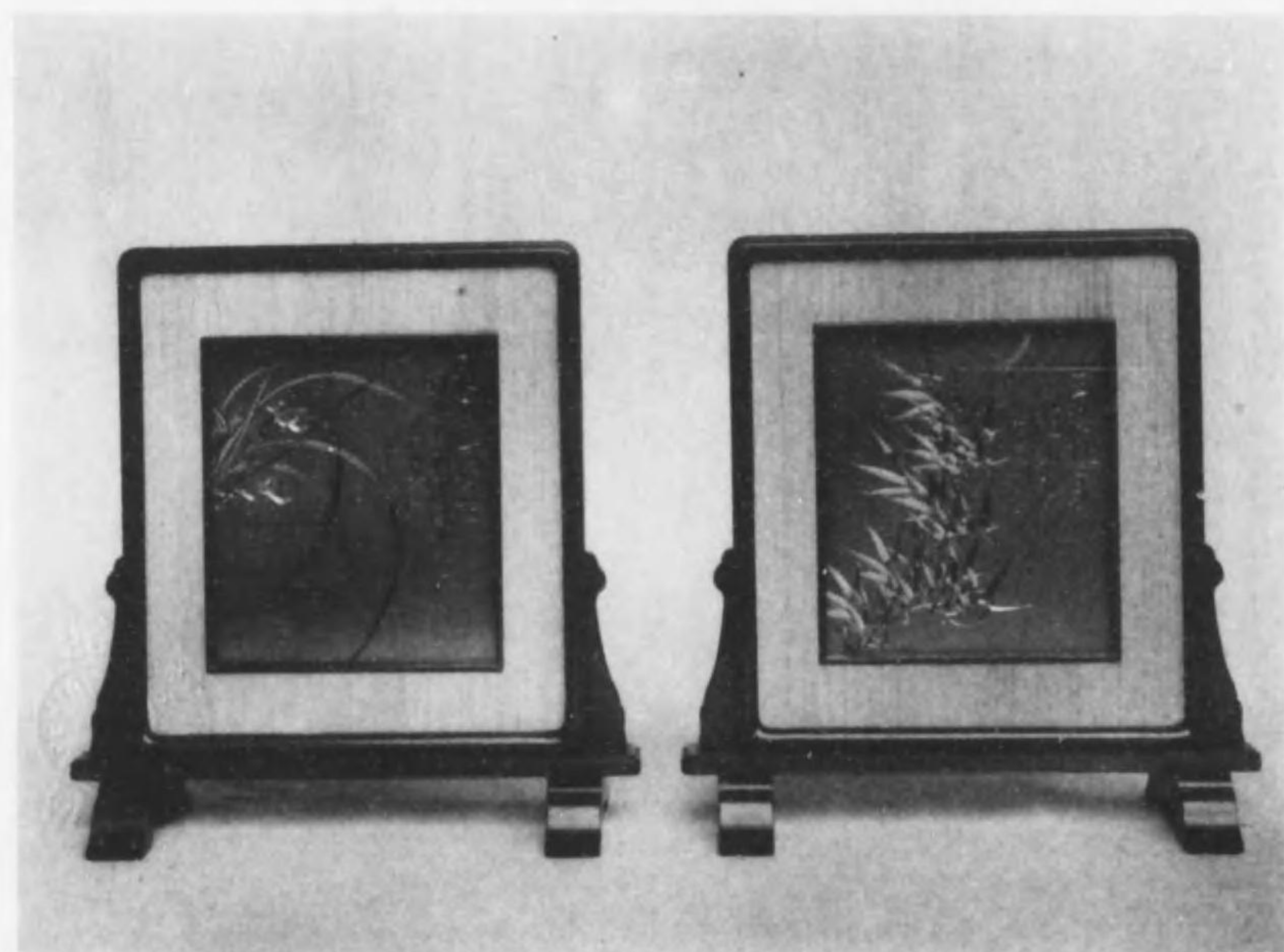
川崎 高津覺三郎氏所藏



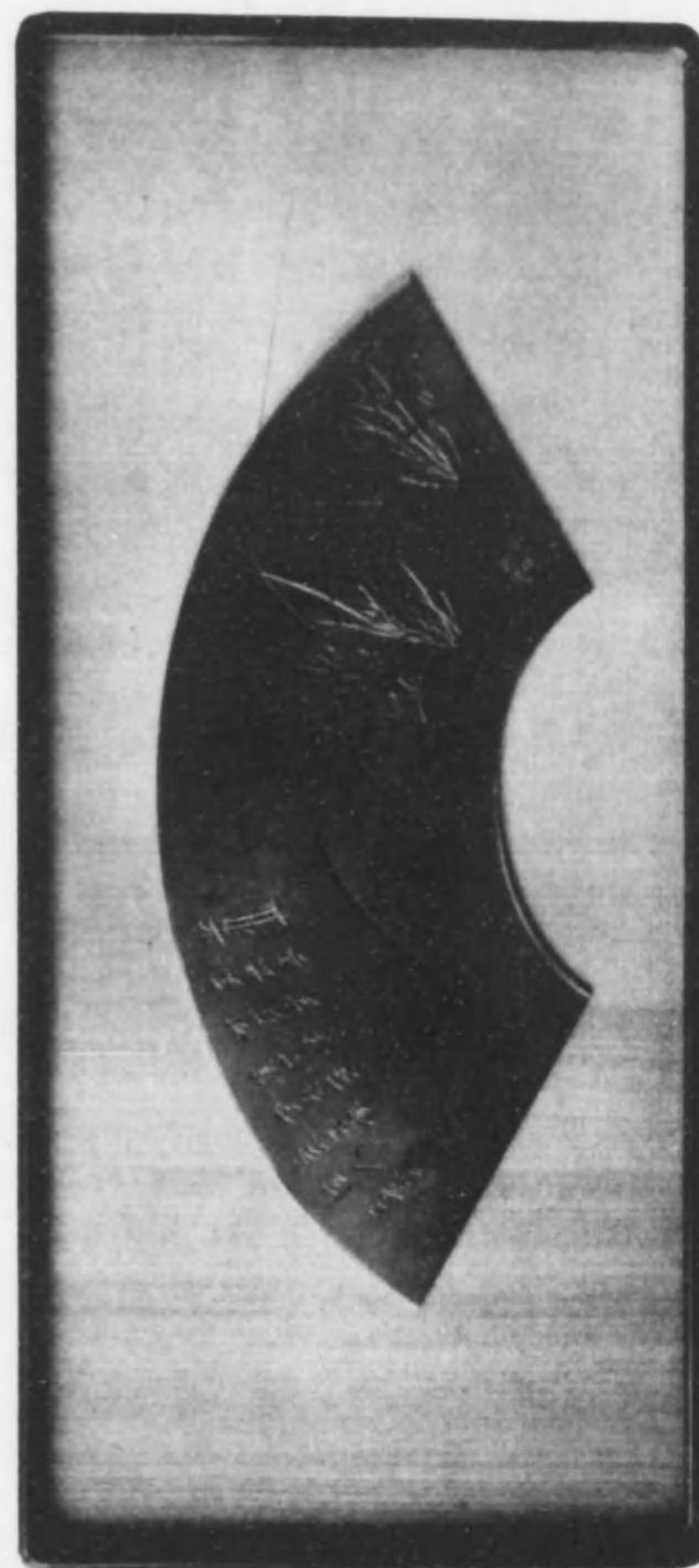
東京 小西新兵衛氏所藏



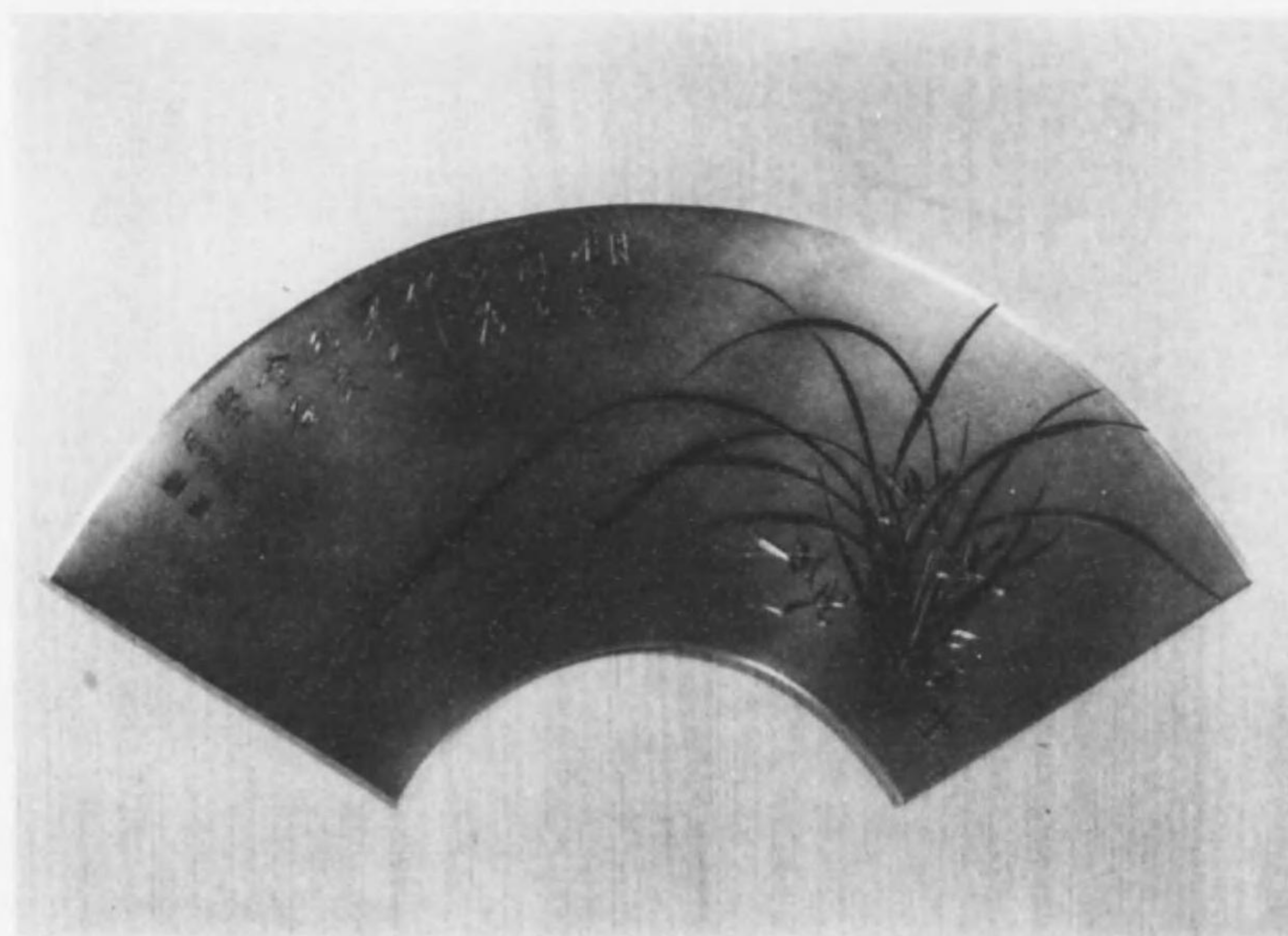
東京 大羽英彦氏所藏



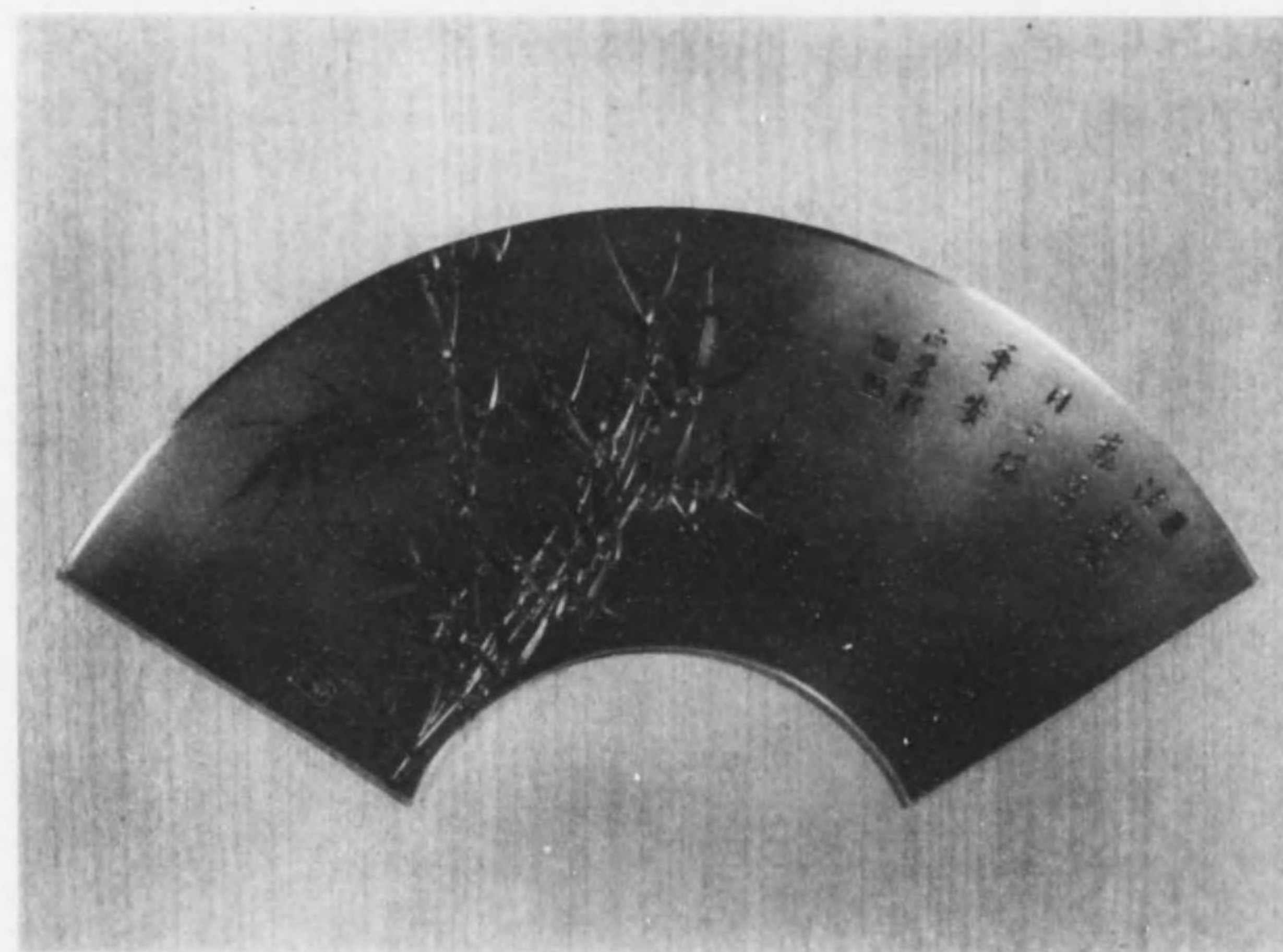
東京 大羽英彦氏所藏



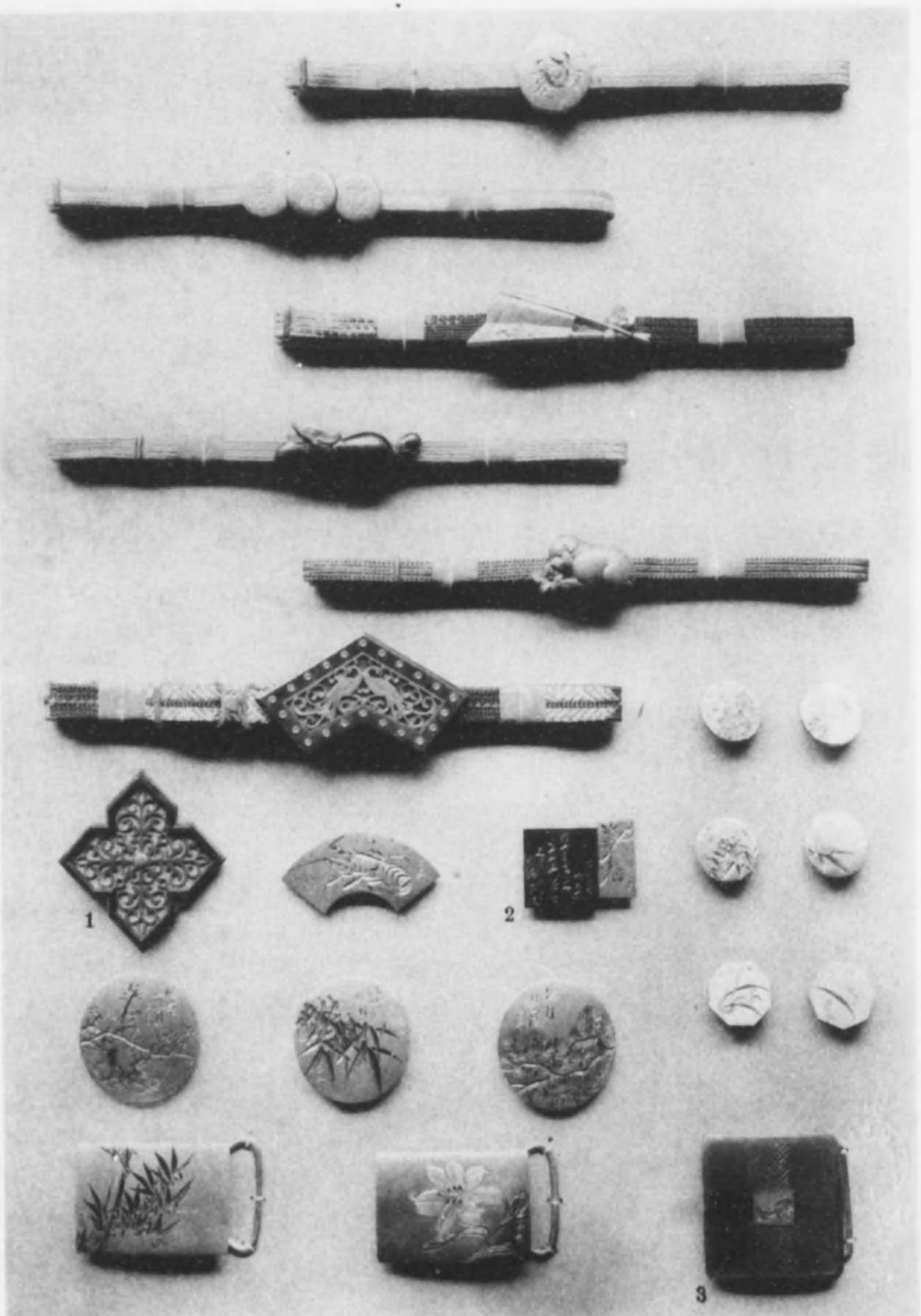
東京 相京繁松氏所藏



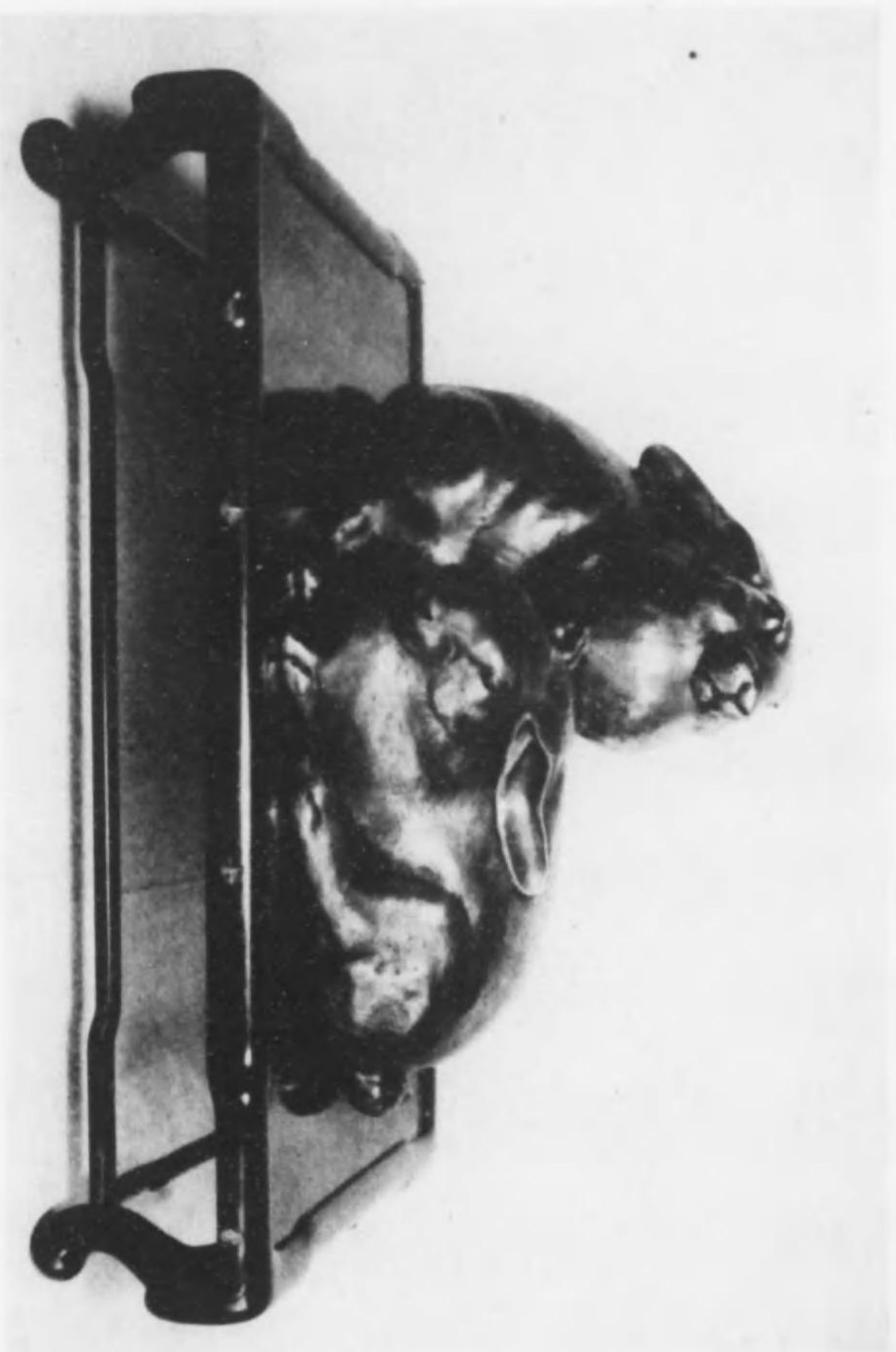
東京 樋口常三郎氏所藏



東京 青木民次郎氏所藏



1. 帶止 東京 大羽美彦氏所藏  
2. 色紙帶止 東京 入江七平氏所藏  
3. 金美鉸 川崎 黒田祝三郎氏所藏



白銅鑄物見置物 東京 歌橋憲一氏所藏

銀打出猪置物（昭和十一年  
第一回帝國展出品）

東京 野口遵氏所藏

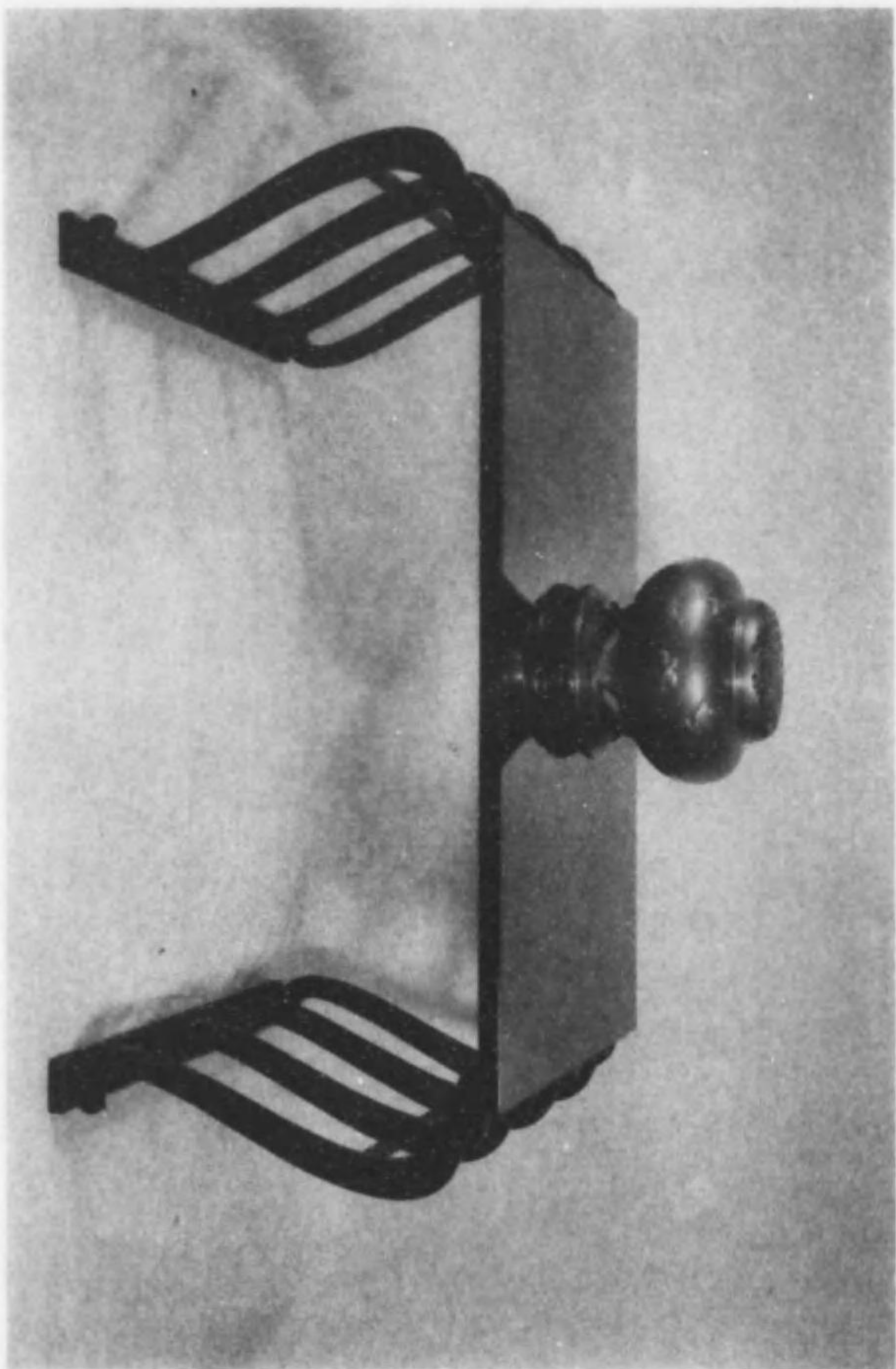
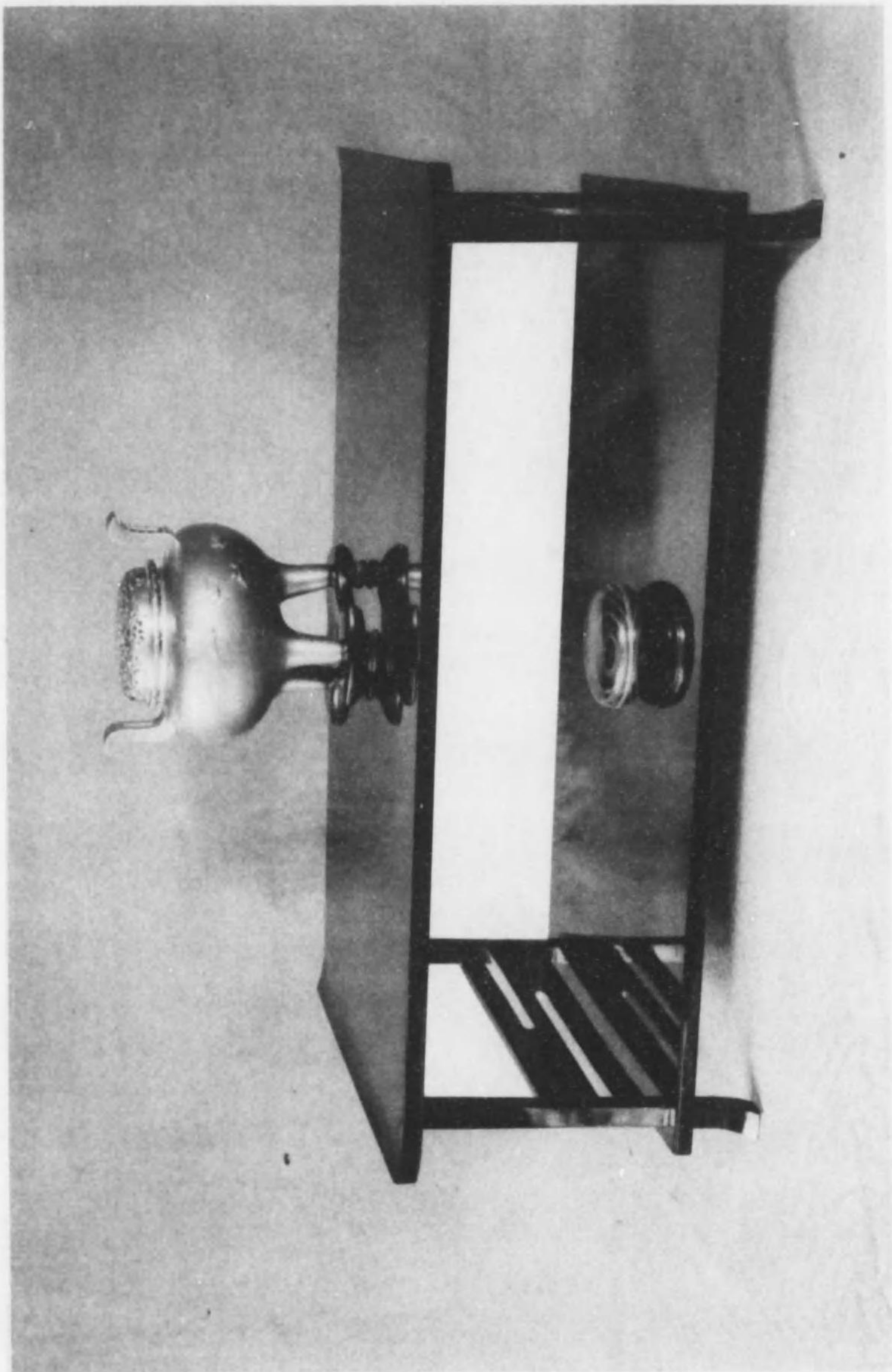


四分一千鳥香爐（昭和十一年文展出品）

東京 野口遵氏所藏

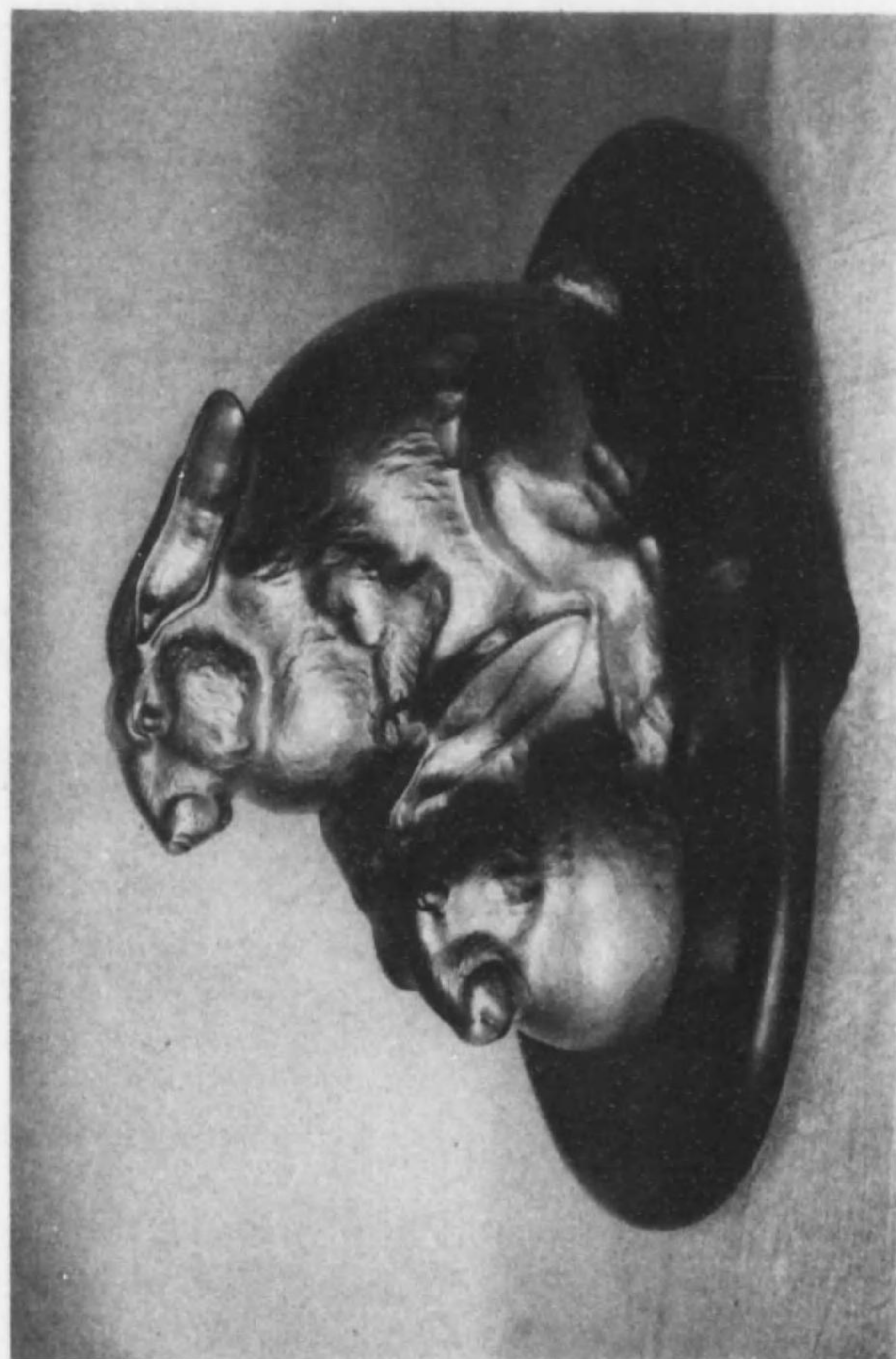


同上

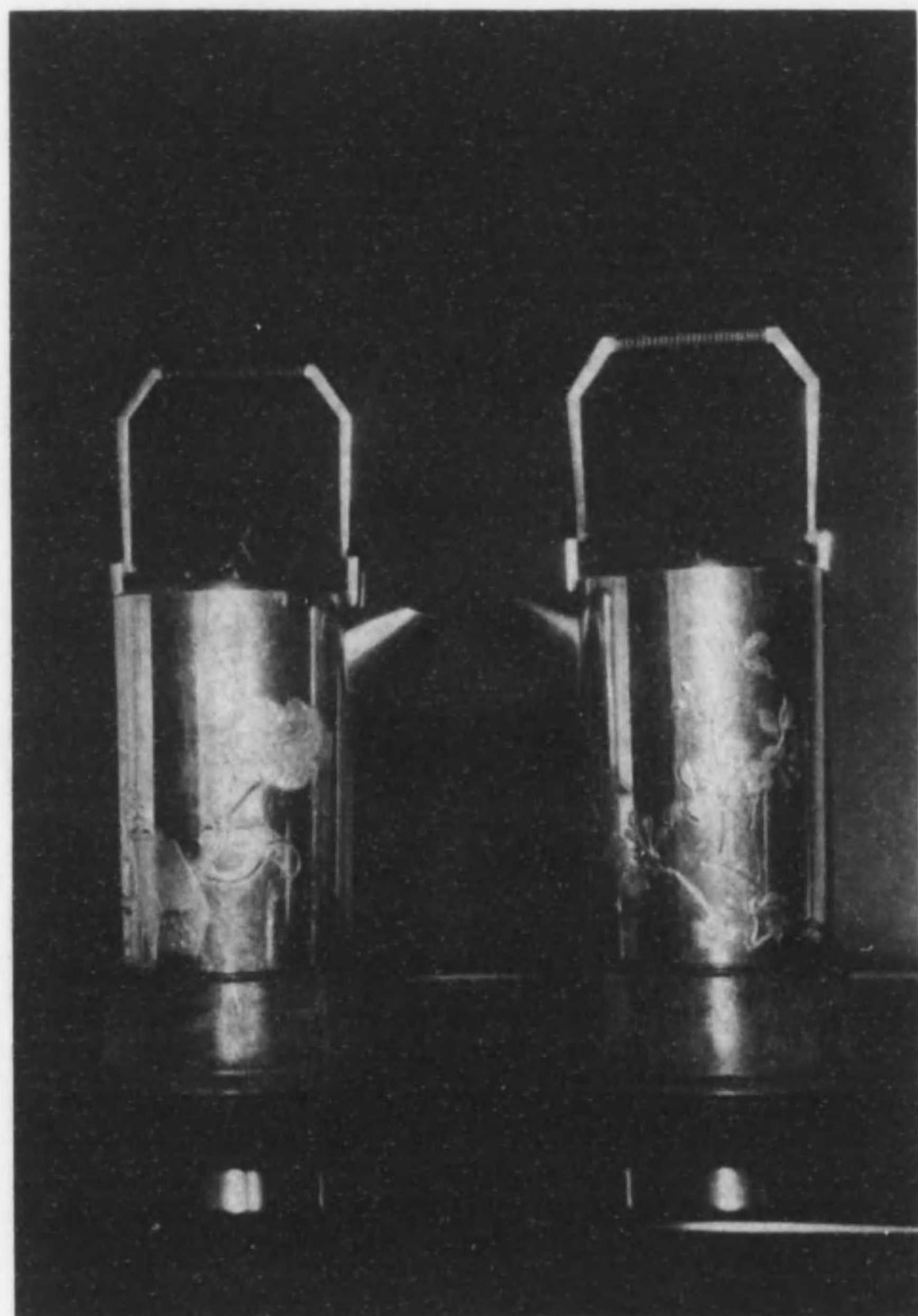


四分一千鳥香爐  
東京 田尻秀吉氏所藏

銀打出兎置物 (第二回文展出品)

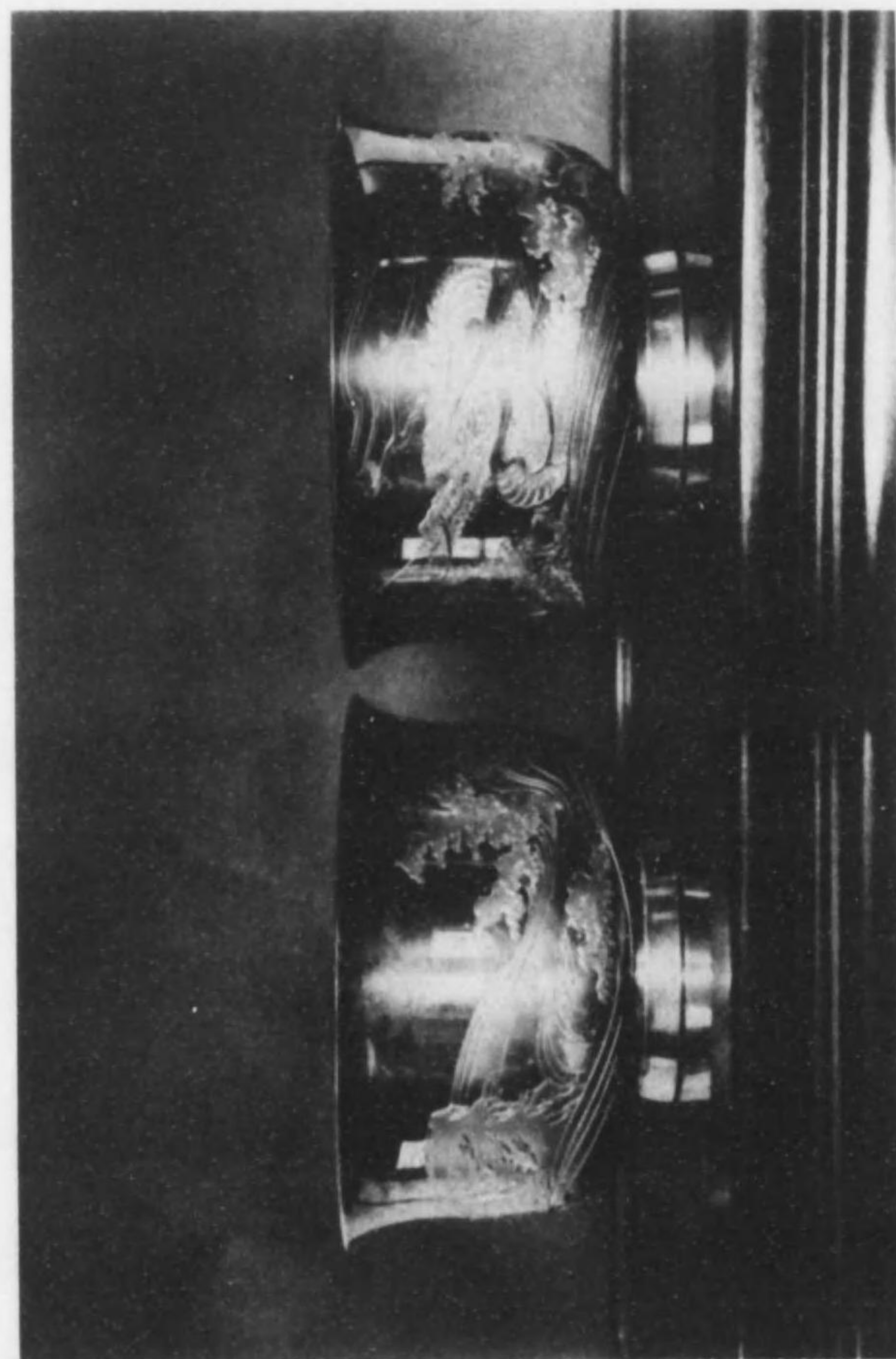


東京 岩崎小彌太氏所藏



東京 入江七平氏所藏

東京 入江七平氏所藏

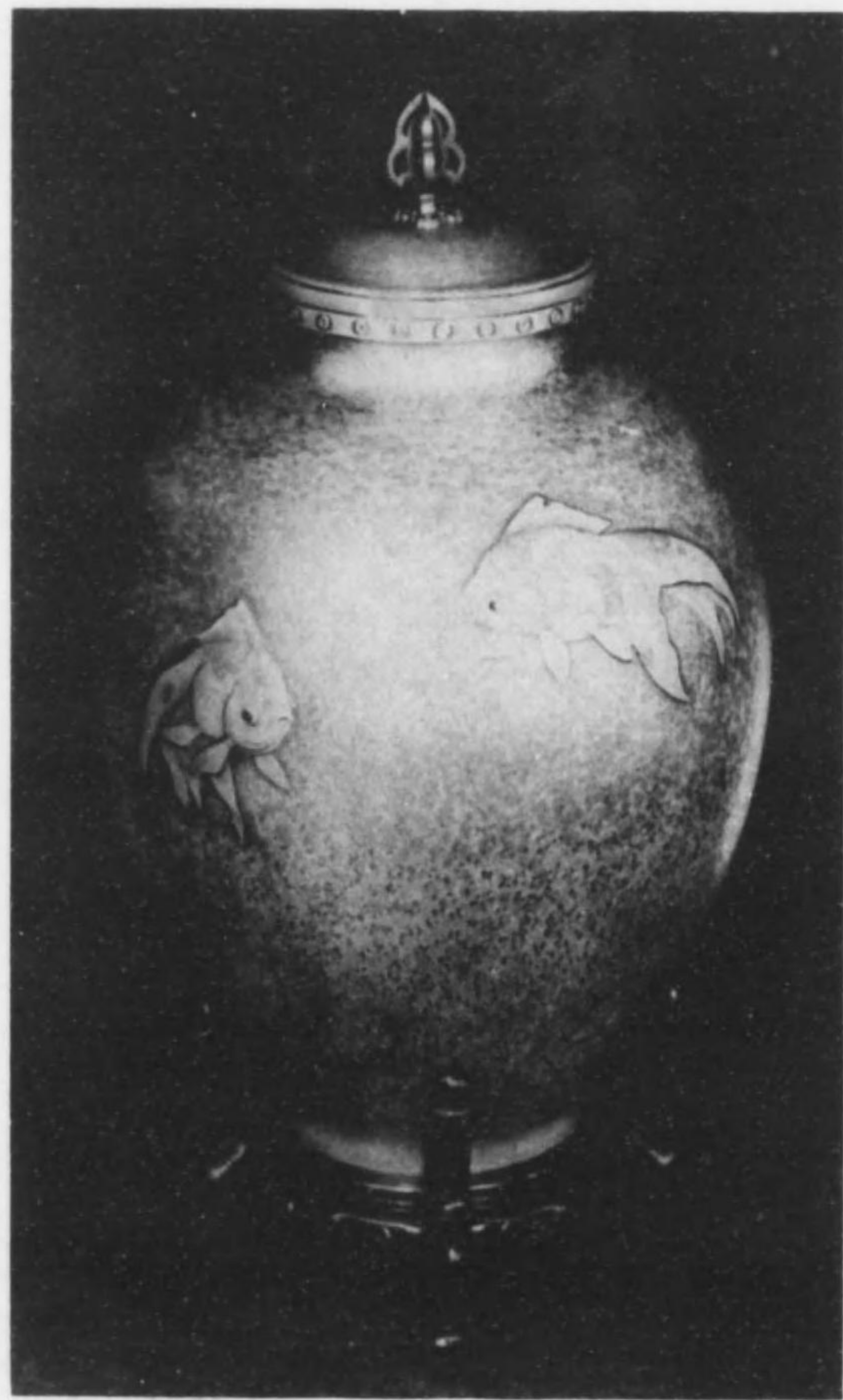


掛額



川崎 有田豊丸氏所藏

銀製金魚文飾壺 (第三回文展出品)



作者所藏

銀製釣香爐 (第八回帝展出品)



大阪 市川誠次氏所藏

銀花盛器（第九回帝展出品）



金四分一製香爐（第十回帝展出品）



東京 歌橋憲一氏所藏

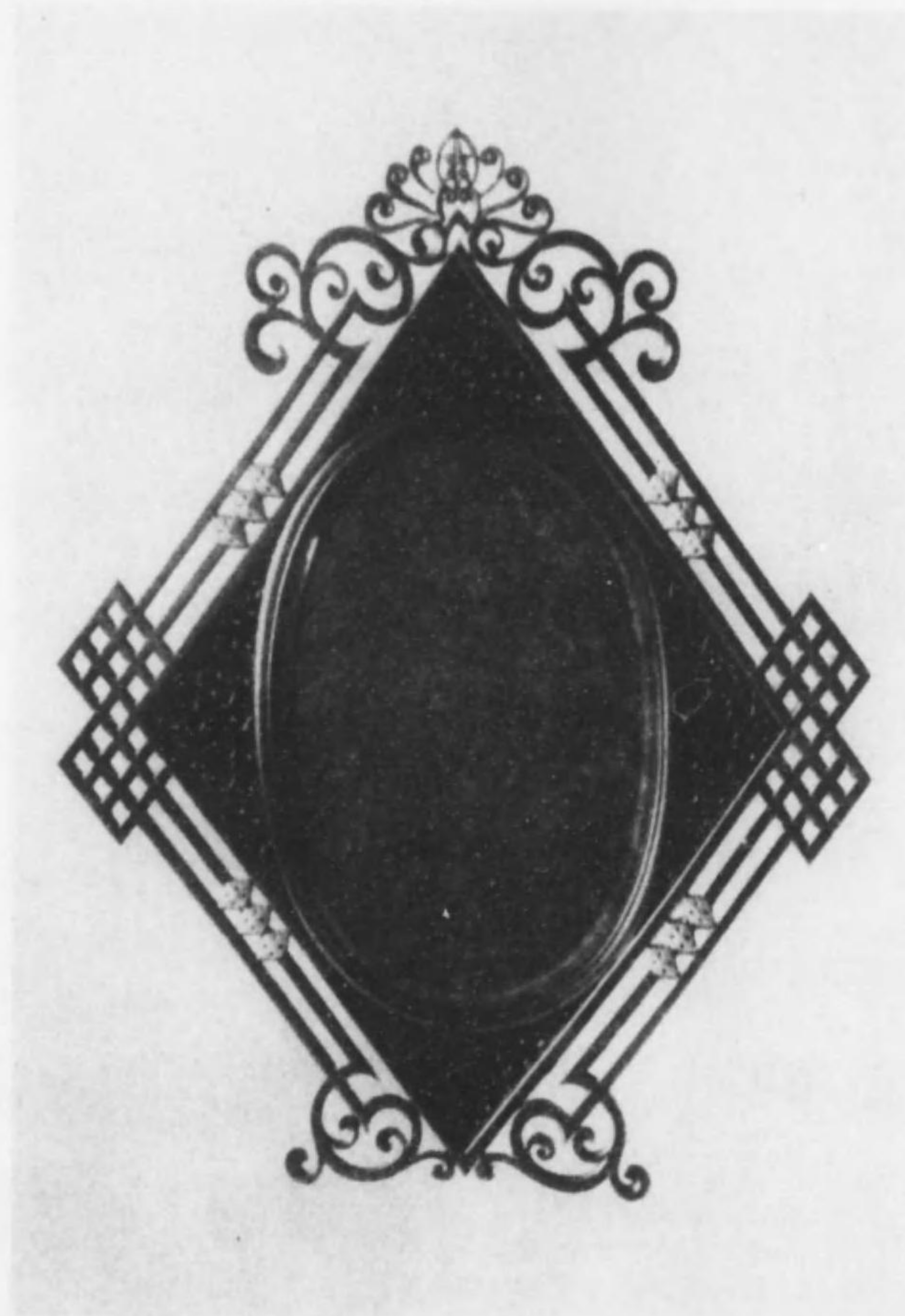
唐草彫寶石匣（第十一回帝展出品）





魴鯉彫素銅壺 (第十三回帝展出品)

男爵 郷誠之助氏所藏

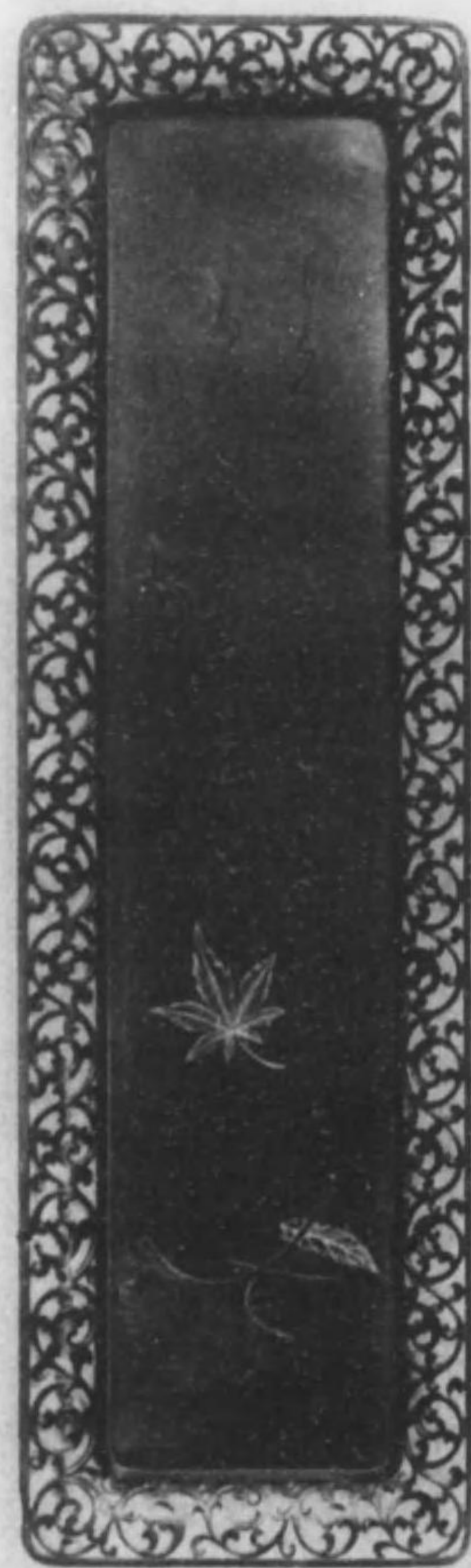


寫真立 (第十二回帝展出品)

東京 歌橋憲一氏所藏

李王家德壽宮陳列 四分一軸盆

東京 小布施新三郎氏所藏



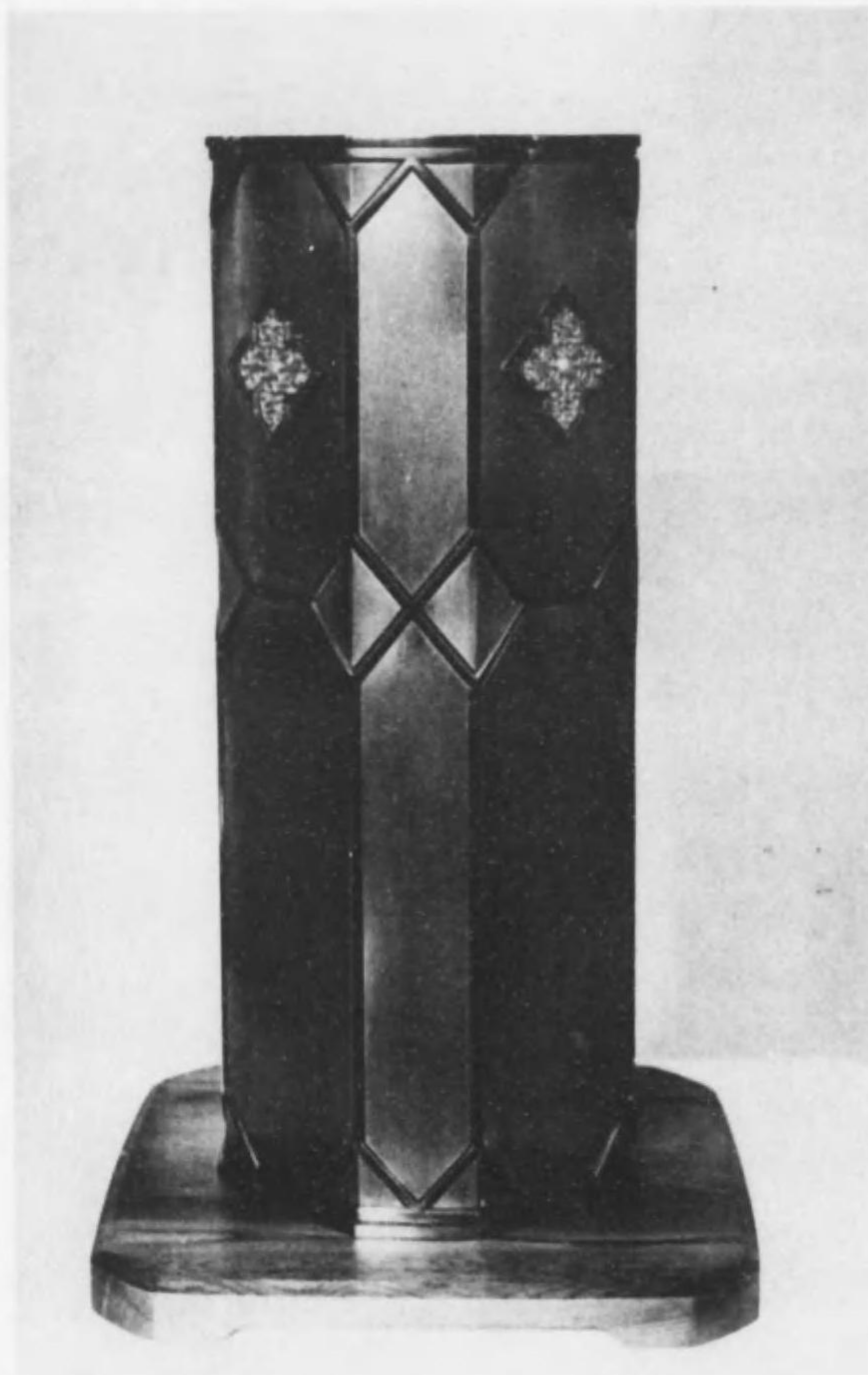
李王家德壽宮陳列 釣香爐香水焚兼用 (第十四回帝展出品)



東京 小布施新三郎氏所藏

龍銀花瓶 (第十五回帝展出品)

大阪 野村元五郎氏所藏





李王家德壽宮陳列 銀製花盛器

東京 歌橋憲一氏所藏

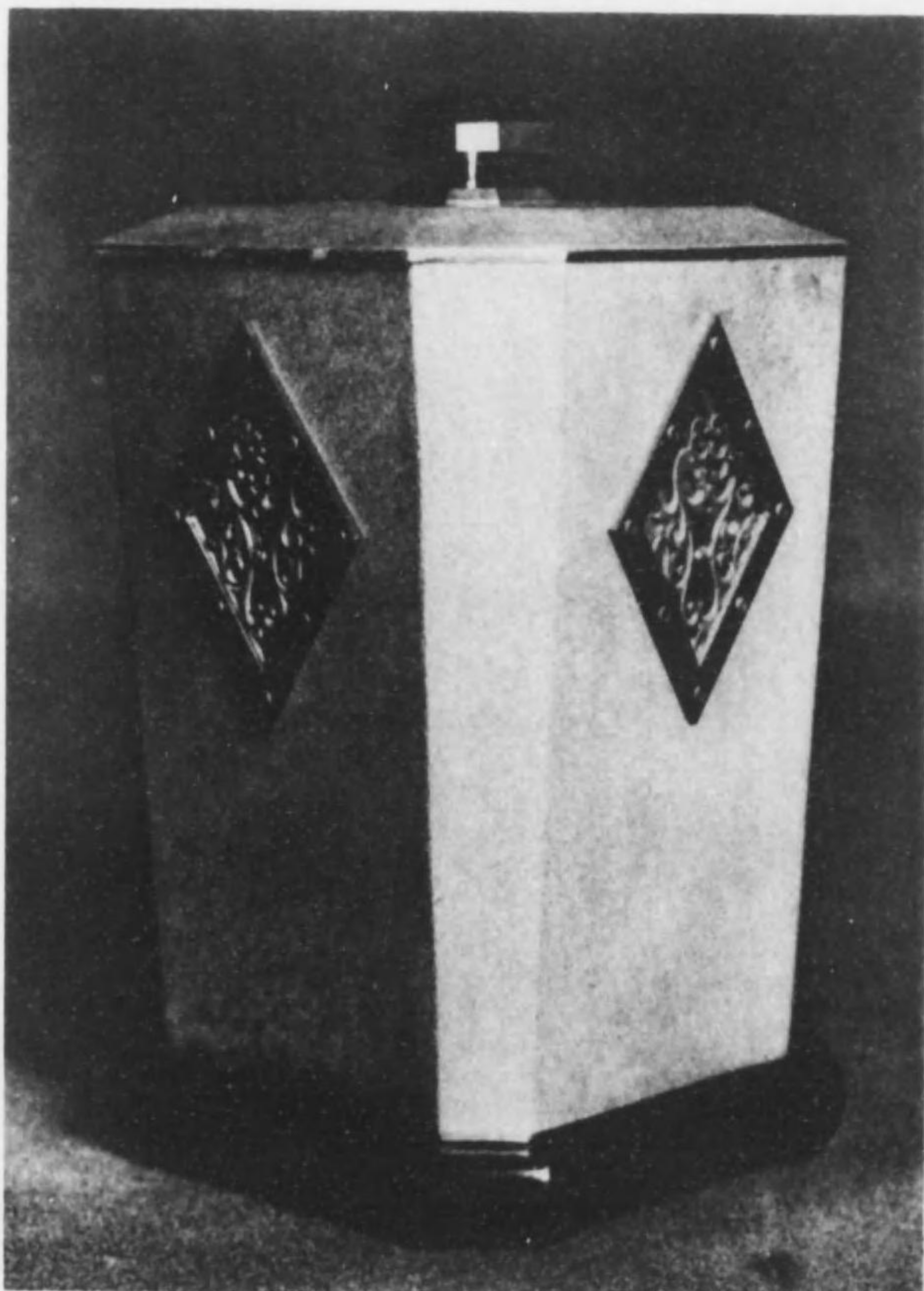


李王家德壽宮陳列 銀製香爐

滿洲國中央銀行御用

李王家德壽宮陳列 銀製飾壺

東京 小布施新三郎氏所藏



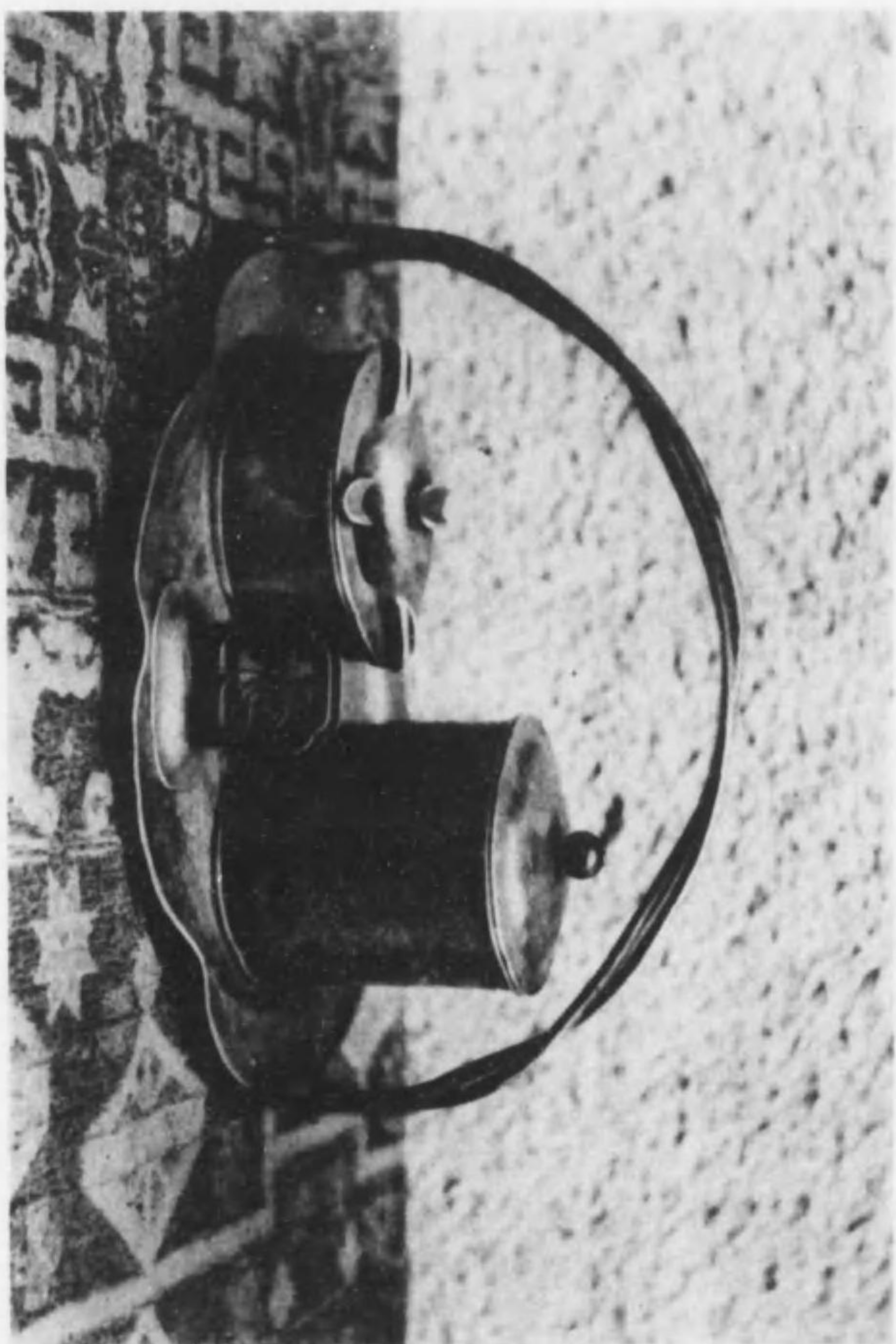
鑄造置物 鷄

東京

歌橋憲一氏所藏

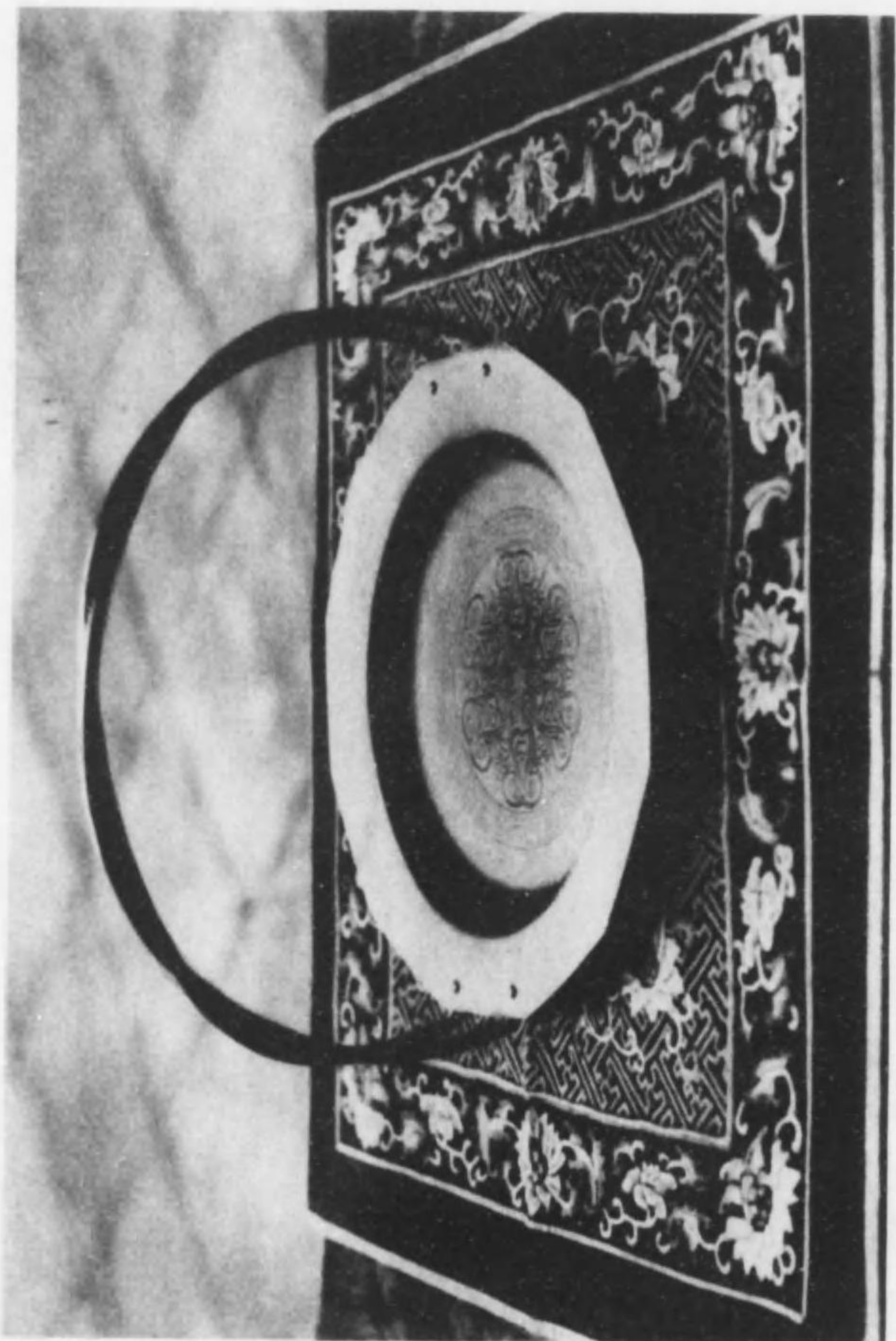


東京 歌橋憲一氏所藏  
銀製セット



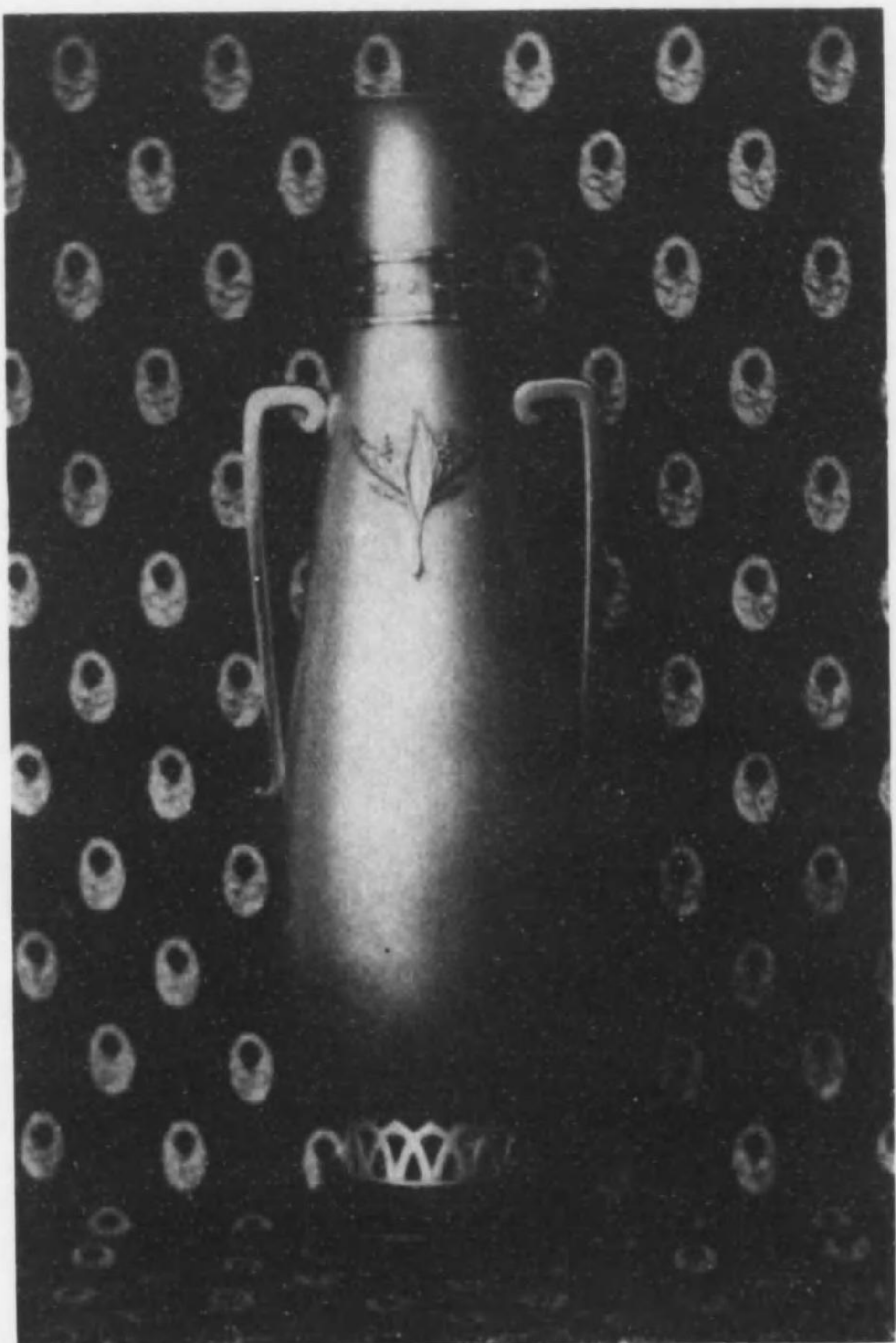
東京 歌橋憲一氏所藏  
銀製セット

東京 歌橋憲一氏所藏



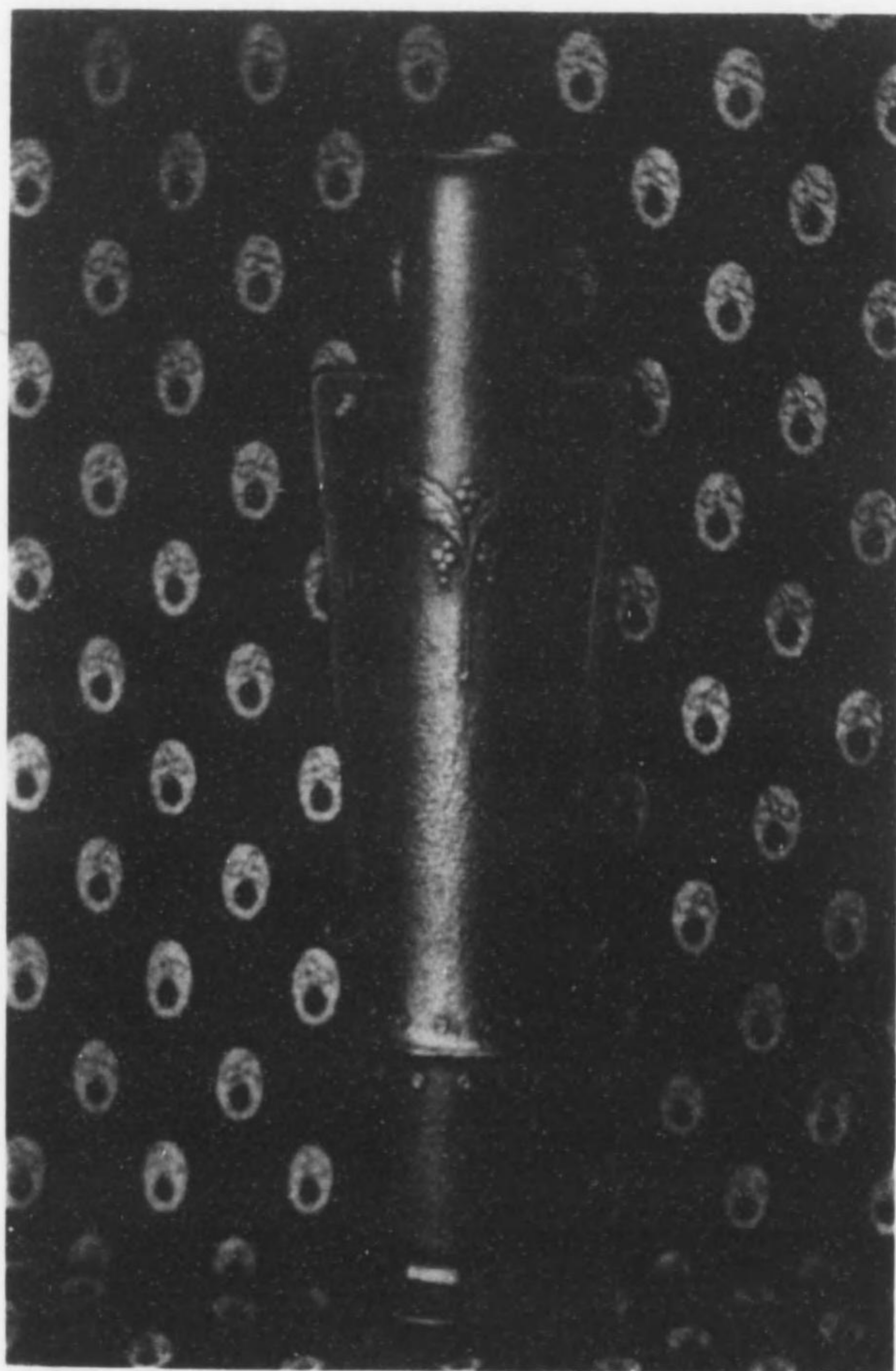
銀製一輪挿

東京 歌橋憲一氏所藏



銀四分一張分一輪挿

東京 歌橋憲一氏所藏



昭和十五年十二月十七日印刷  
昭和十五年十二月廿三日發行

【非賣品】

複不  
製許

印刷者  
發行基  
者 條

東京市豊島區駒込六丁目八十二番地  
四谷正美  
東京市京橋區銀座三丁目三番地  
株式會社 美雪院代表者  
野口 駿 尾

307

101

終